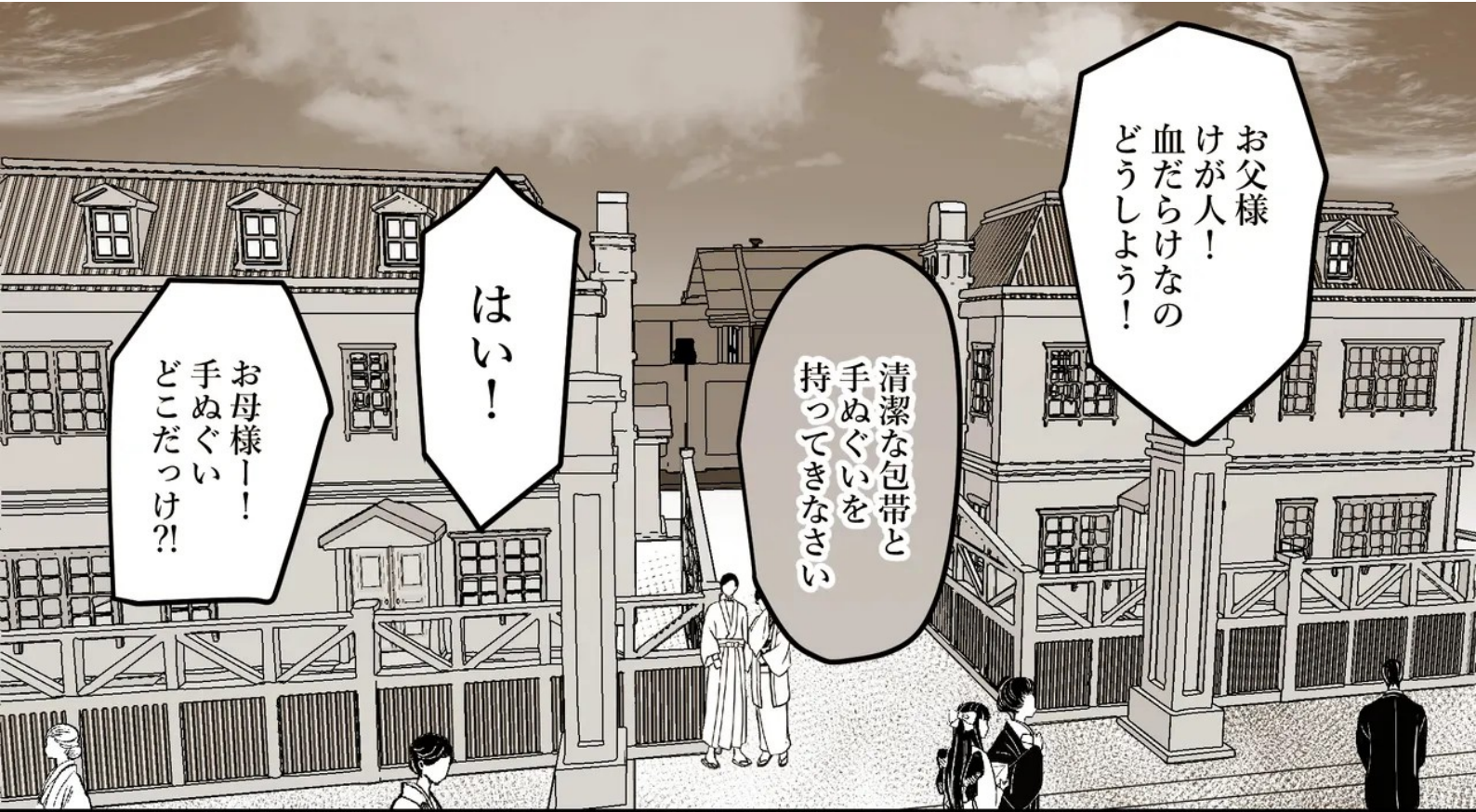






お父様
けが人！
血だらけなの
どうしよう！

清潔な包帯と
手ぬぐいを
持ってきて下さい

はい！

お母様ー！
手ぬぐい
どこだっけ？！

命に別状は
なさそうだ

貧血も
重症ではないな

後は安静にさせて
目が覚めるのを
待とう

さすが
お父様……
かっこいい

この子は
結女子の
知り合いか？

ううん
知らない子
森の中に
倒れてたの

またその恰好で
森に入ったのか

あ……

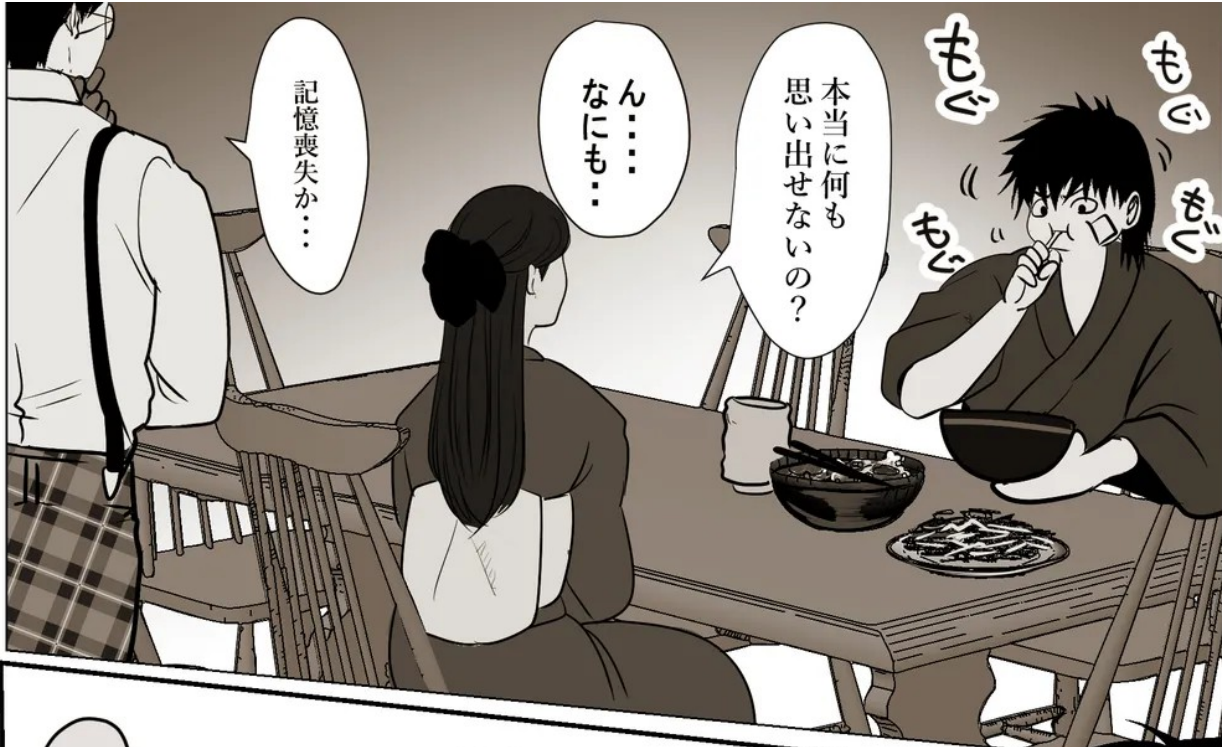
まあ今はいい

着替えて
顔を洗って
きなさい

後はお父さんが
看ているから

ズンズン

彼の名前は佐之助



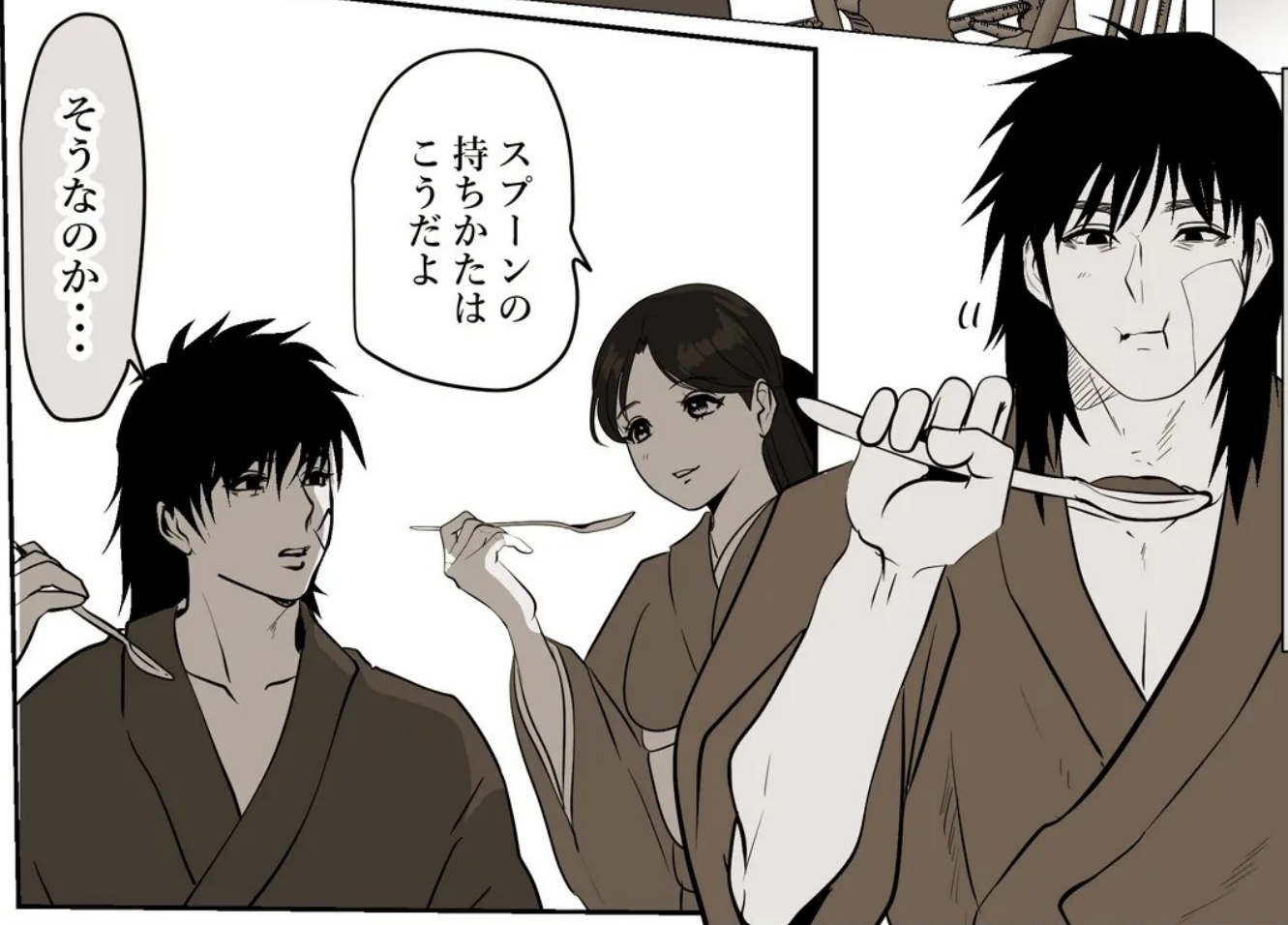
本当に何も
思い出せないの？

ん……
なにも…

記憶喪失か…

もぐもぐ
もぐもぐ
もぐもぐ

名前以外の記憶を
ごっそり忘れていた



スプーンの
持ちかたは
こうだよ

そうなのか…

とりあえず
今日はゆっくり
休みなさい
これからことは
後で考えよう

ありがとう
ございます



行き場のない彼を
ケガが治るまで
この家で保護する
こととなりました

3人だけで
このデカイ家に
暮らしているのか？

ここは書庫
主にお父様のもので
専門書が多いけど：

暇つぶしには
なると思うよ

読み書きは
できる？

……
できない
みたいだ

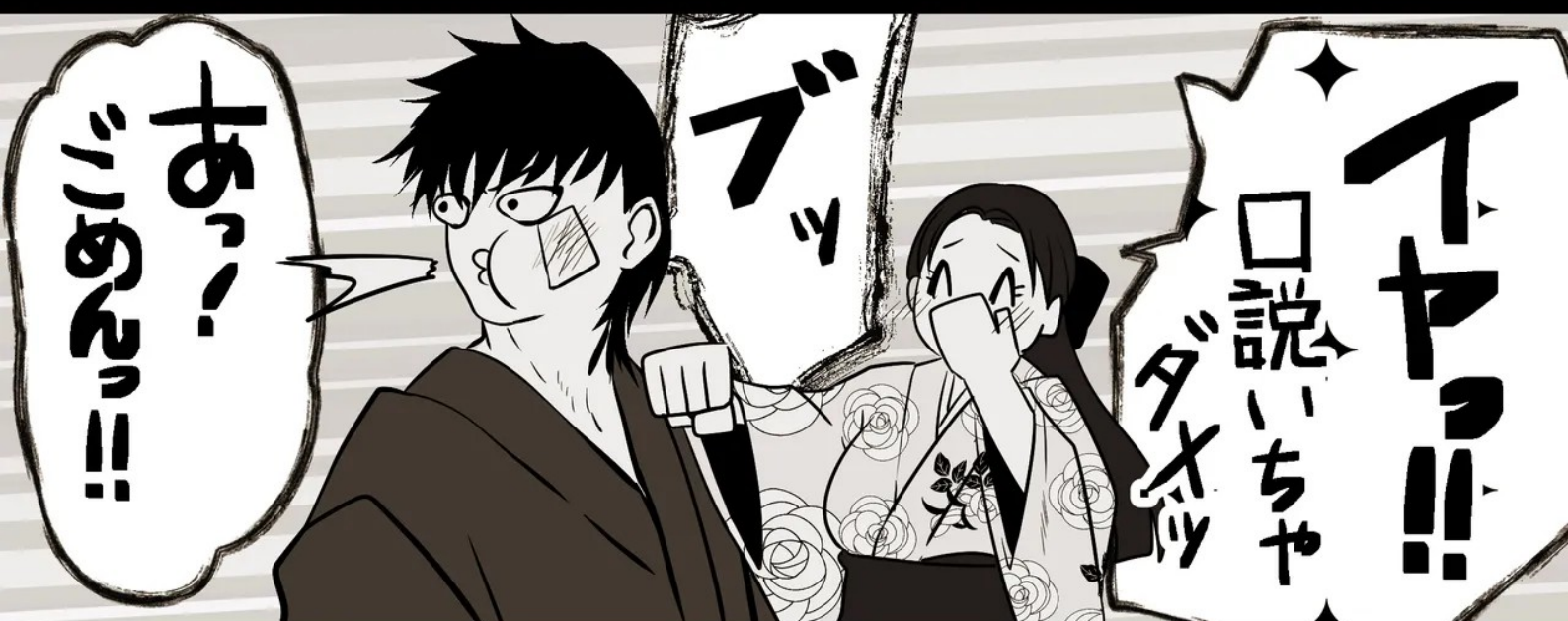
うん、あとは
猫5匹。
姉が2人いるけど
お嫁にいったの

ど、どうかした？

ありがとう
見ず知らずの
俺を助けてくれて。

ちゃんと
お礼言えて
なかったから

ううん
気にしないで
早く傷が
治るといいね



彼は無口だけど
不愛想では
なかった

進んで家事を
しようと
したし

家族団らんの
邪魔に
なるからと
早く部屋に
戻っていきました
(お母様が
引き止めたけど)

なんだか
哀れに思っ
てしまっ
た節が
あり
近所の
螢を
見に行
った
りした

私が学校に
いる間は
ネコの面
倒を
見ていた
らしい

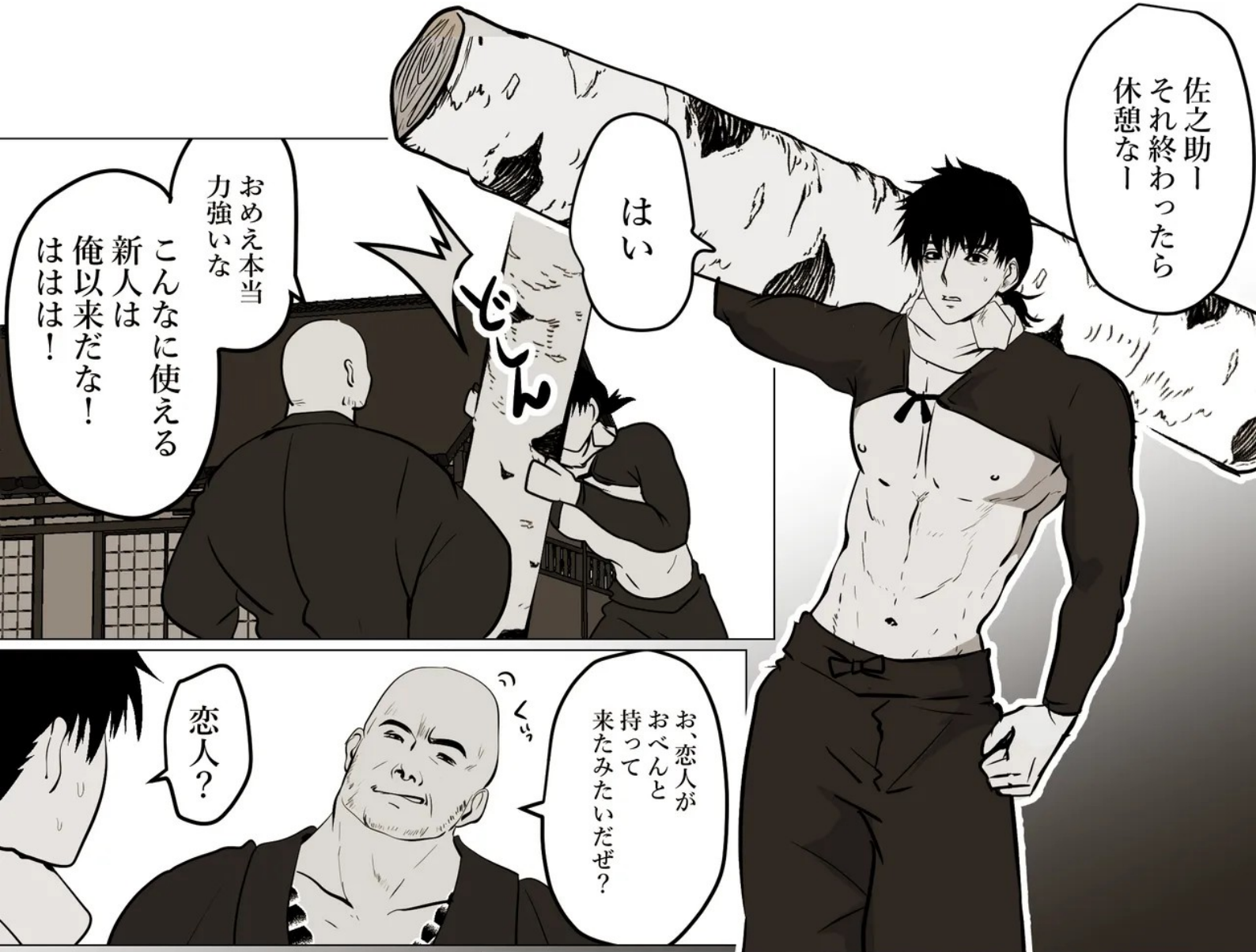
ネコ……

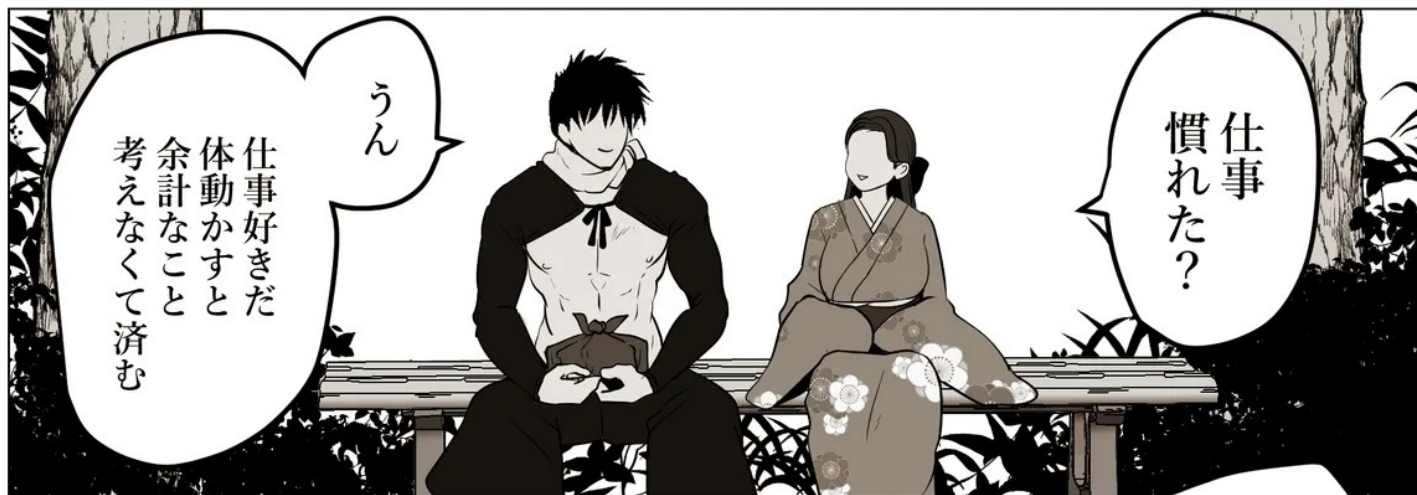
きつと
同じ年
くらい
の男の
子だけ
ど
佐之助
は
落ち着
いていた

そのうち
日々あ
ったこ
とを
報告し
合うの
が
日課に
なった

そして……
体が良
くなっ
て
来た頃

お父様
のお知
り合い
の大工
さん所
で
面倒を
見て
もらっ
たこと
に
なりま
した

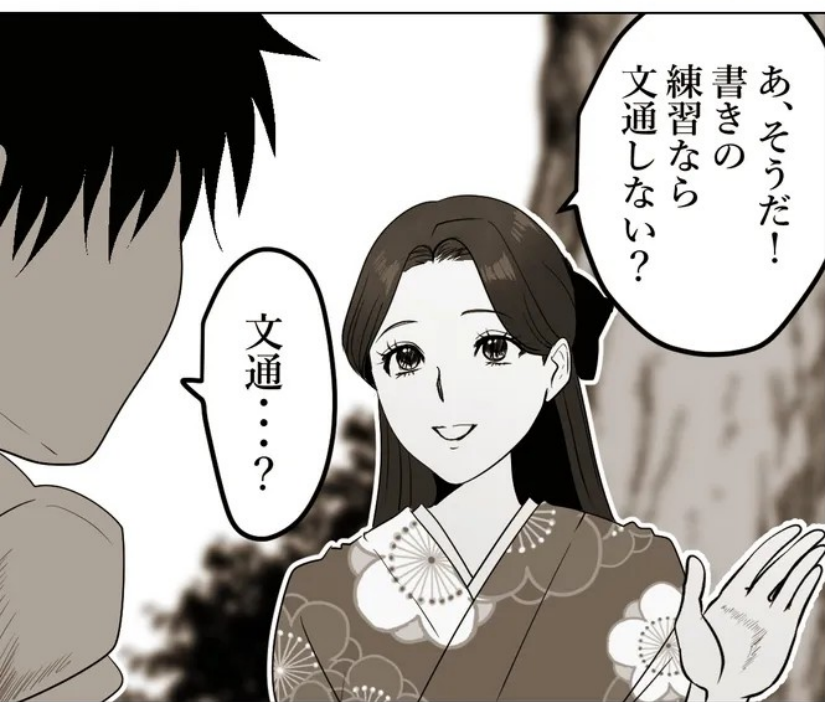




仕事
慣れた？

うん

仕事好きだ
体動かすと
余計なこと
考えなくて済む



あ、そうだ！
書きの
練習なら
文通しない？

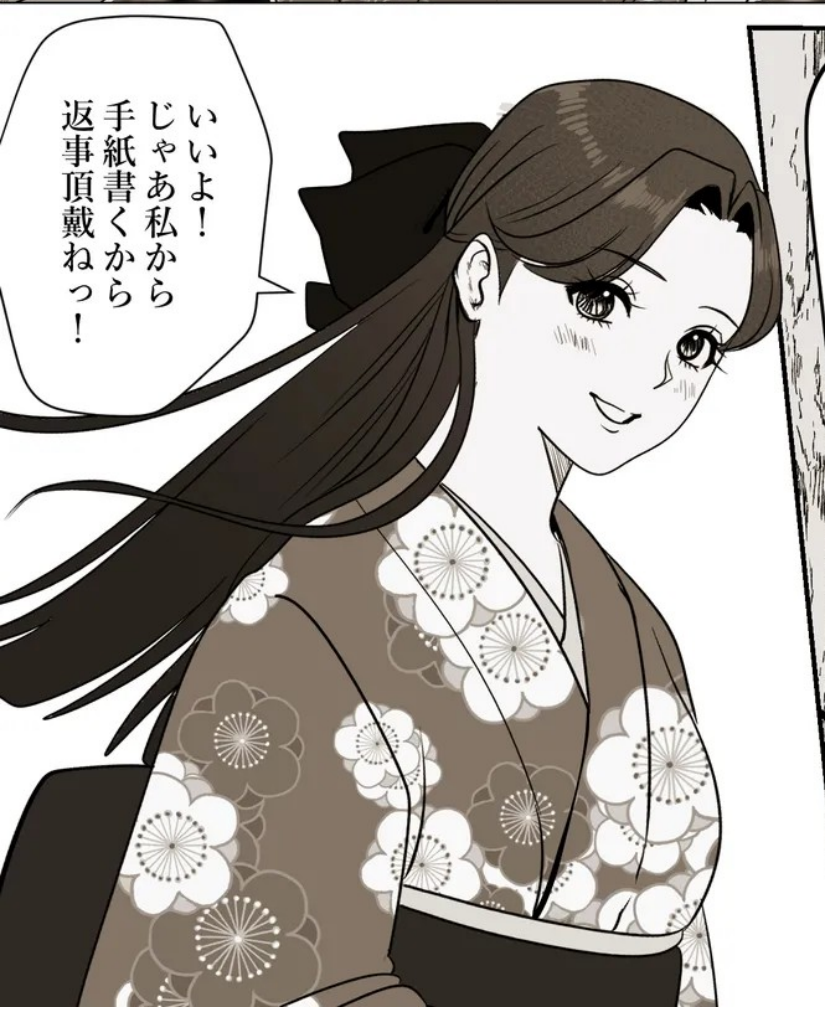
文通……？



夜は、読み書きを
勉強してる
けど……
疲れて机で
寝ることが多い

読み書きなら

うちに本
沢山あるし
貸せるよ



いいよ！
じゃあ私から
手紙書くから
返事頂戴ねっ！



お母様も
佐之助の様子
気になってるの

でも毎日
尋ねる訳にも
いかない
でしょう？

わかった
でも俺経験
ないから
見本見せて
くれないか？

もう行くのか

うん！
午後からまた
お勉強に行くから

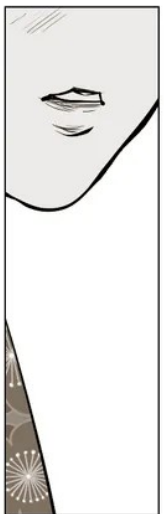
そうか…

弁当、ありがとう
明日家に空箱
持っていく

結女子との
文通、楽しみだ

私も

佐之助からの
返事、楽しみ



軽い気持ちで
提案した
佐之助と
始めた文通

結女子「
佐之助君から
お手紙
来てたわよ
お母さんにも
見せて」

イヤっ！
だめ！
中見てから
教えるから！

結女子さんの卵焼き
あまくて
美味しかったです…

貸してくれた
漢字の本を
よんでたら
いつもより
早く眠ります…

最近
何をしていますか



ぎこちのない文章
でも
一生懸命書いて
くれている

それが…
嬉しかった
あと少し
かわいい



もっと頻繁に
手紙がほしい

ううん…
できるなら
会って話したい

たまに登校中の
道に現場がある



手紙の中では
沢山話して
くれるのに



実際に会うと
顔を背けられる



なんだかこの関係が
むずがゆいけど
嫌いじゃなかったり



アツいねー

佐ノ助オメエ
スミに置けねー
なあ!!



だから花火大会に
誘ってみたの

おーい
佐之助

おまたせ

いつもと
服違うな

うん!どう?

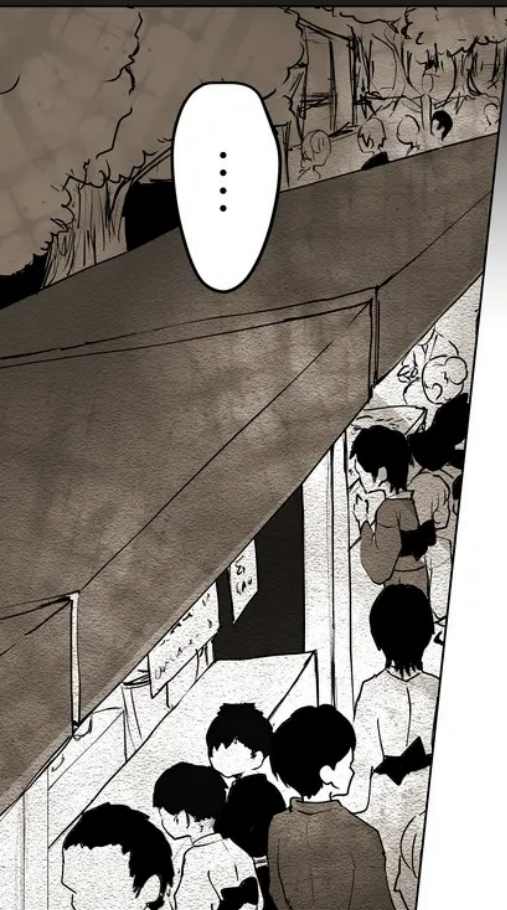
あんたに
似合ってる

ううん
いいの

俺これしか
綺麗なの
無くて、悪い

人多いな
迷子になりそうだ

毎年この花火を
皆楽しみに
しているからね





うん……!



飯の店
ばっかだな

奥に行けば
射的とか
あるよ!



腕、組めば



腕かたいね
筋肉かな

多分……

揉まないでくれ……

佐之助は
その後屋台で
そばを5杯食べ……

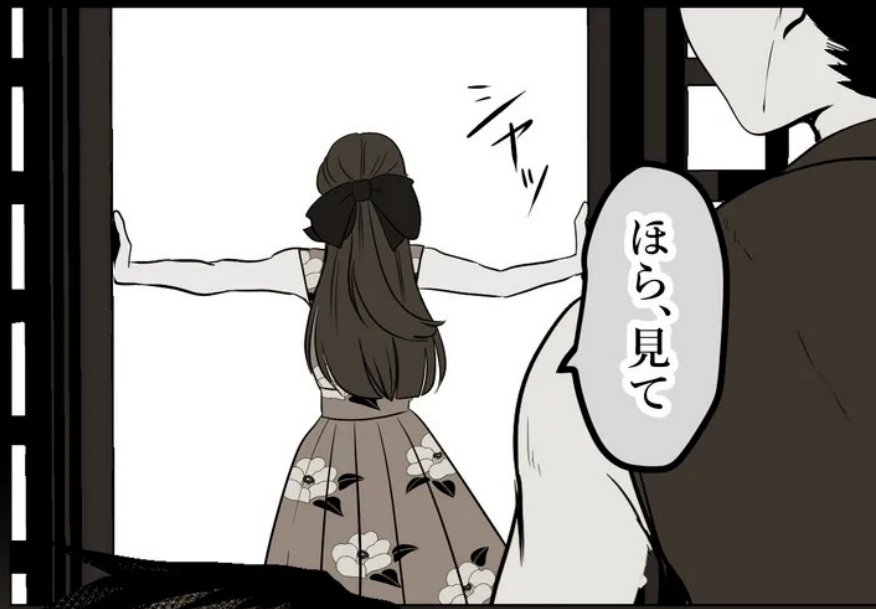
射的をして
おみくじで
大凶を引いていた



もう少しで
花火始まるよ
良い場所
予約してるの

予約?
地面をか?

んふふ
ついてきて





ああ…

綺麗でしょ？



私と一緒に
見たこと、
忘れないでね



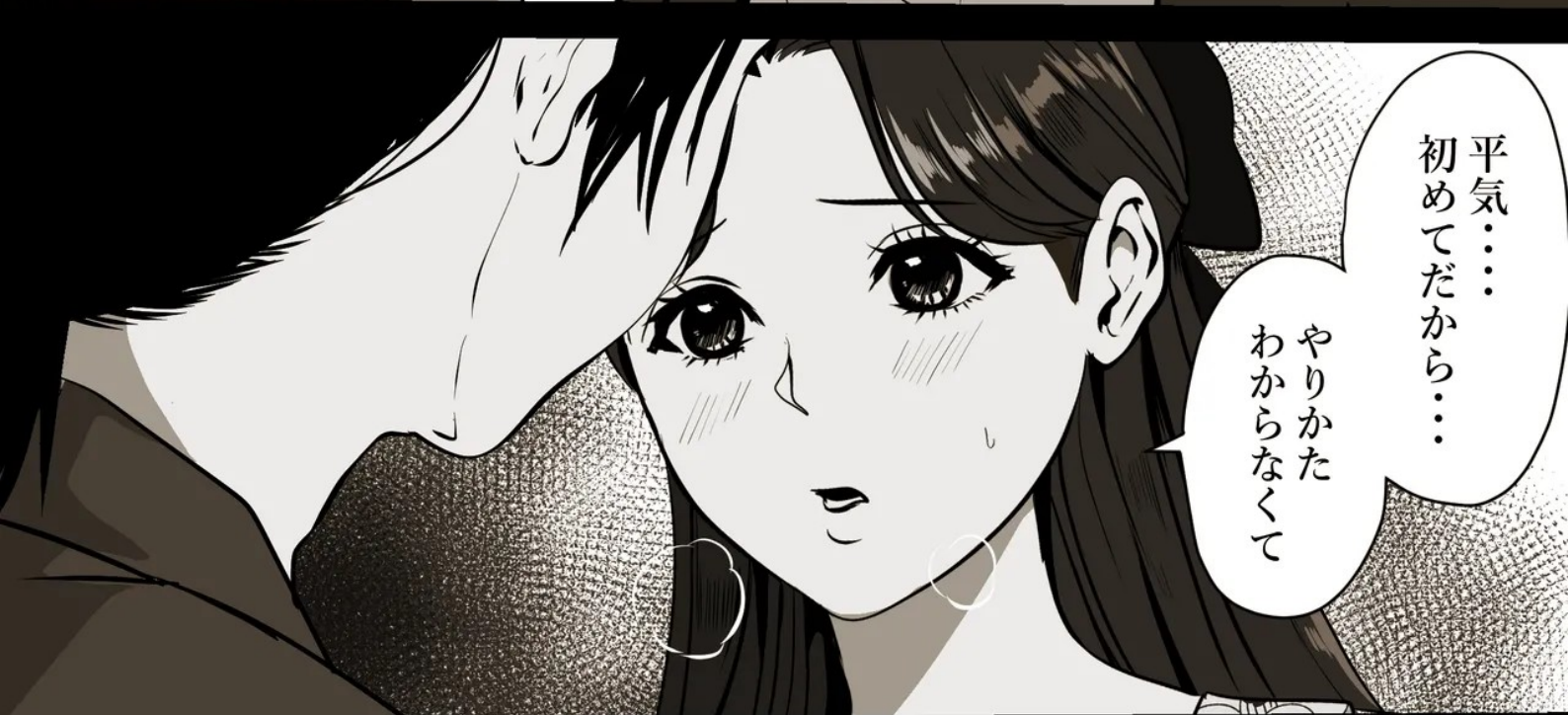
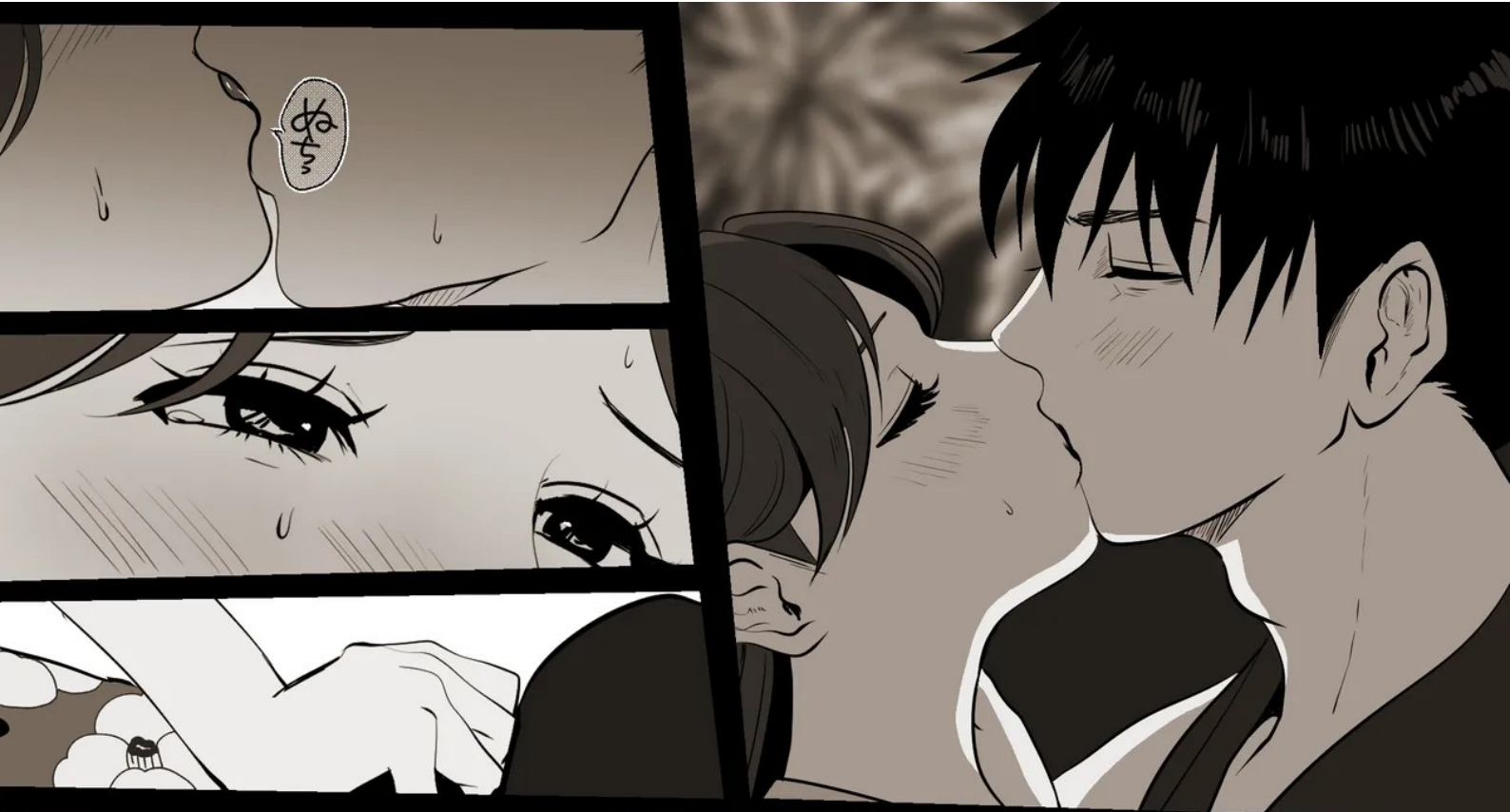
でも
忘れたくねえ



約束できない







佐之助はきつと
初めてじゃないね

多分…

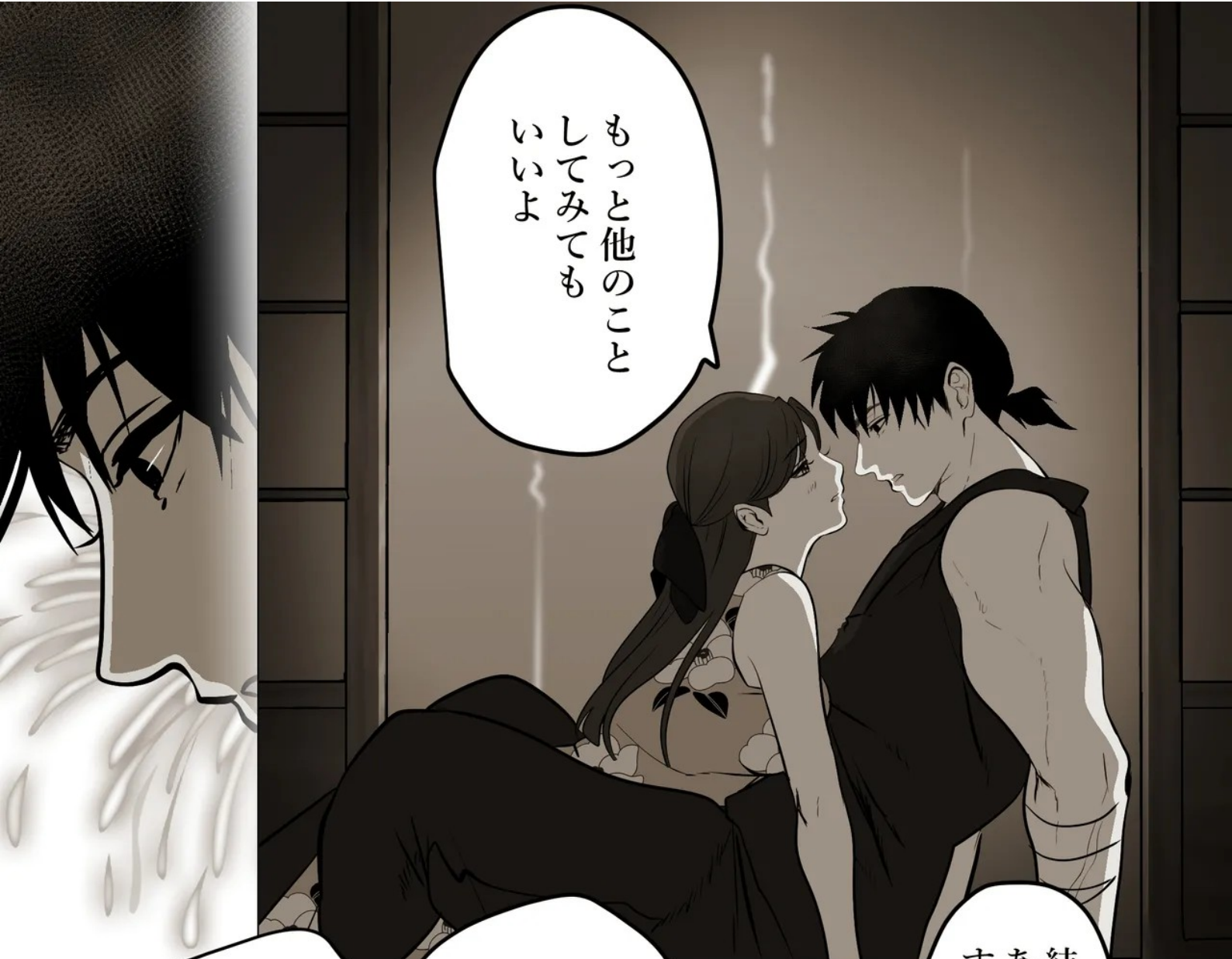
なぜか
こうしたく
なっていました

アンタが
魅力的だからかな

ううん

佐之助に
してほしかった

了承なしに
いきなり…ごめん



もつと他のこと
してみても
いいよ

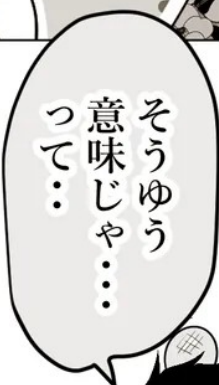
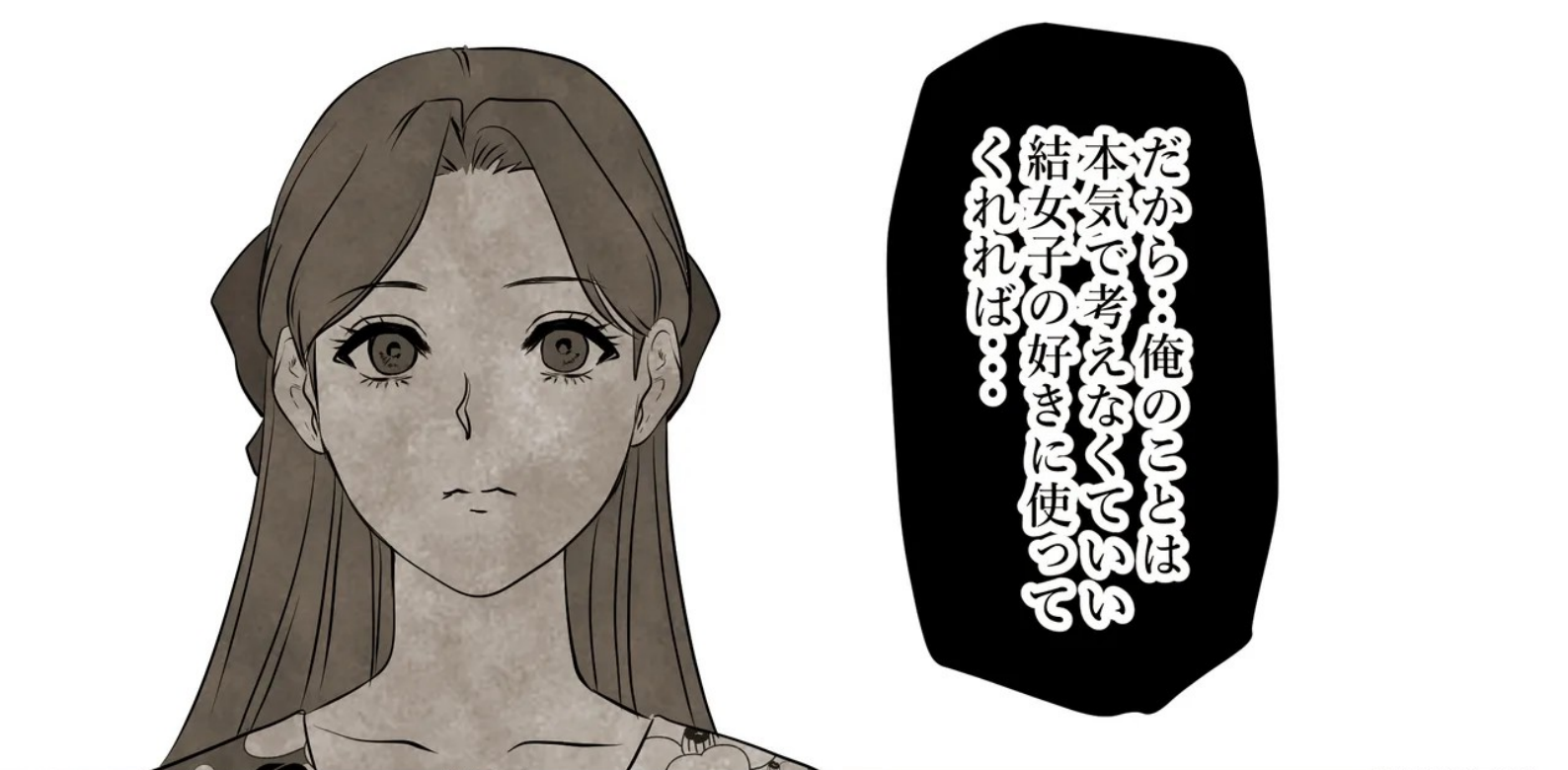


結女子は大事な人だ
あんたの家族も
すげえ大事な人たち

だから……
あんたの未来を
俺で穢したくねえ

記憶ないけど
直感で思うんだ
俺は
「まともな人生」
送ってきて
ないって

文字は読めないのに
人の殴り方はわかる











花火まだ
終わってない



来年も
俺と…？



来年一緒に
ちゃんと
見ればいいよ

来年…？



うん





靴下止め…
皆つけてるよ



この紐何？



一つ聞いて
いいか？

うん？



ふうん…



なんか

いいな…

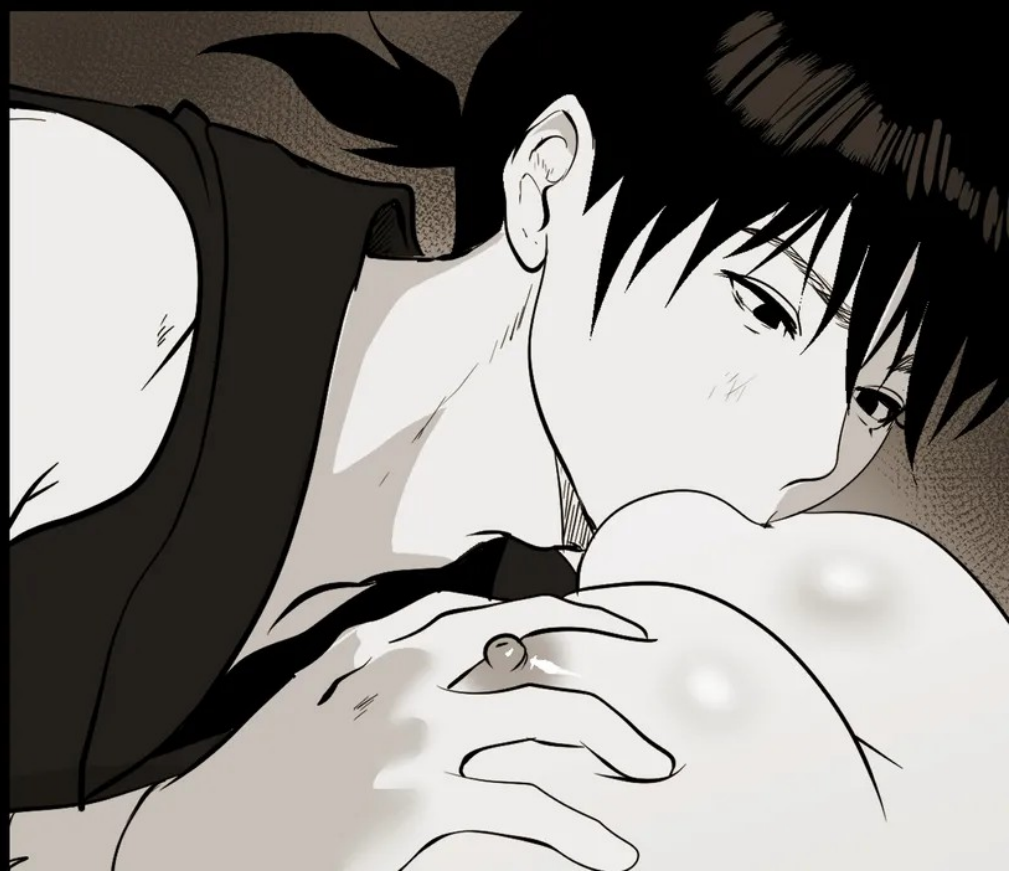


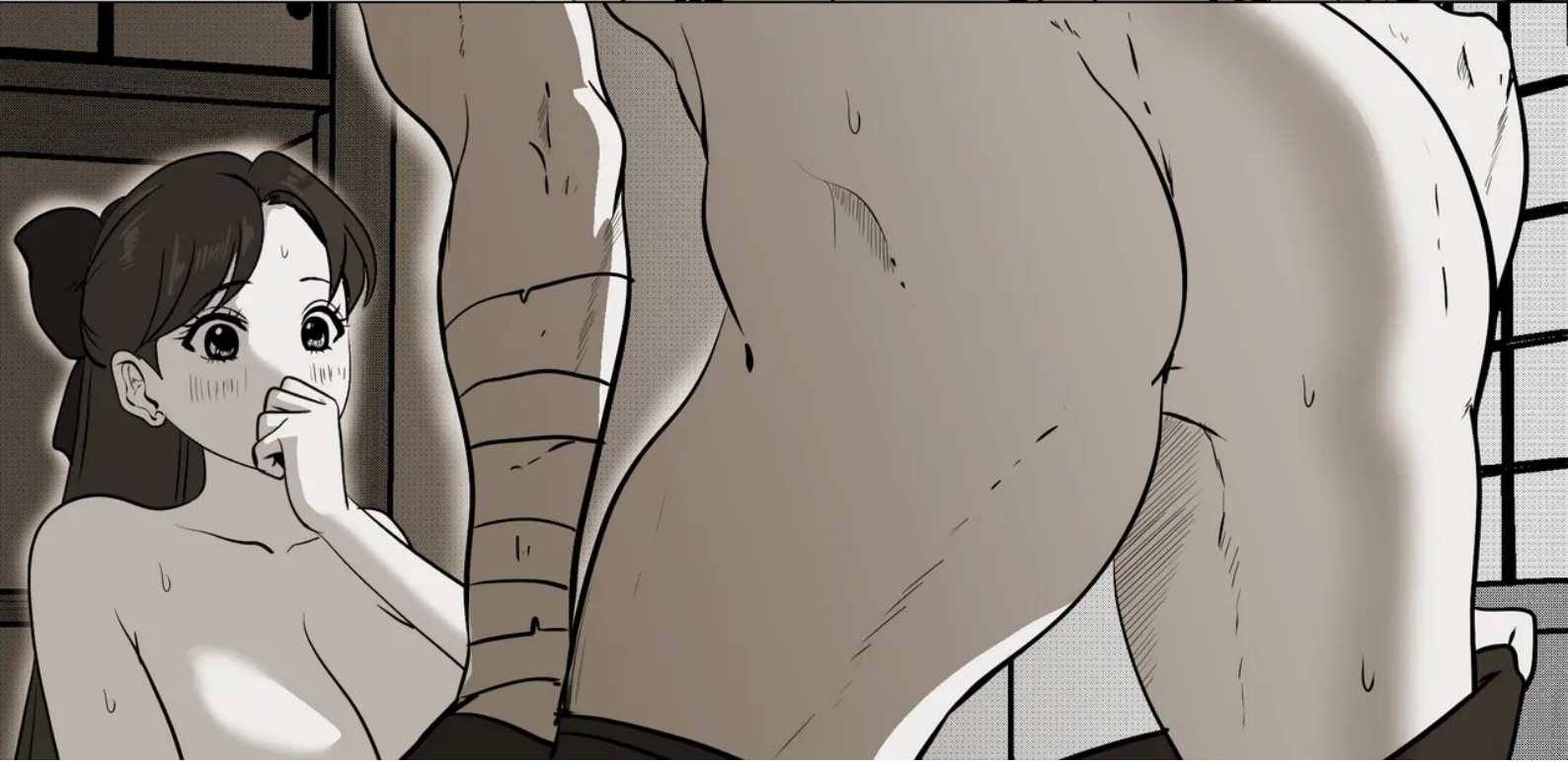
そのまま
付けてて



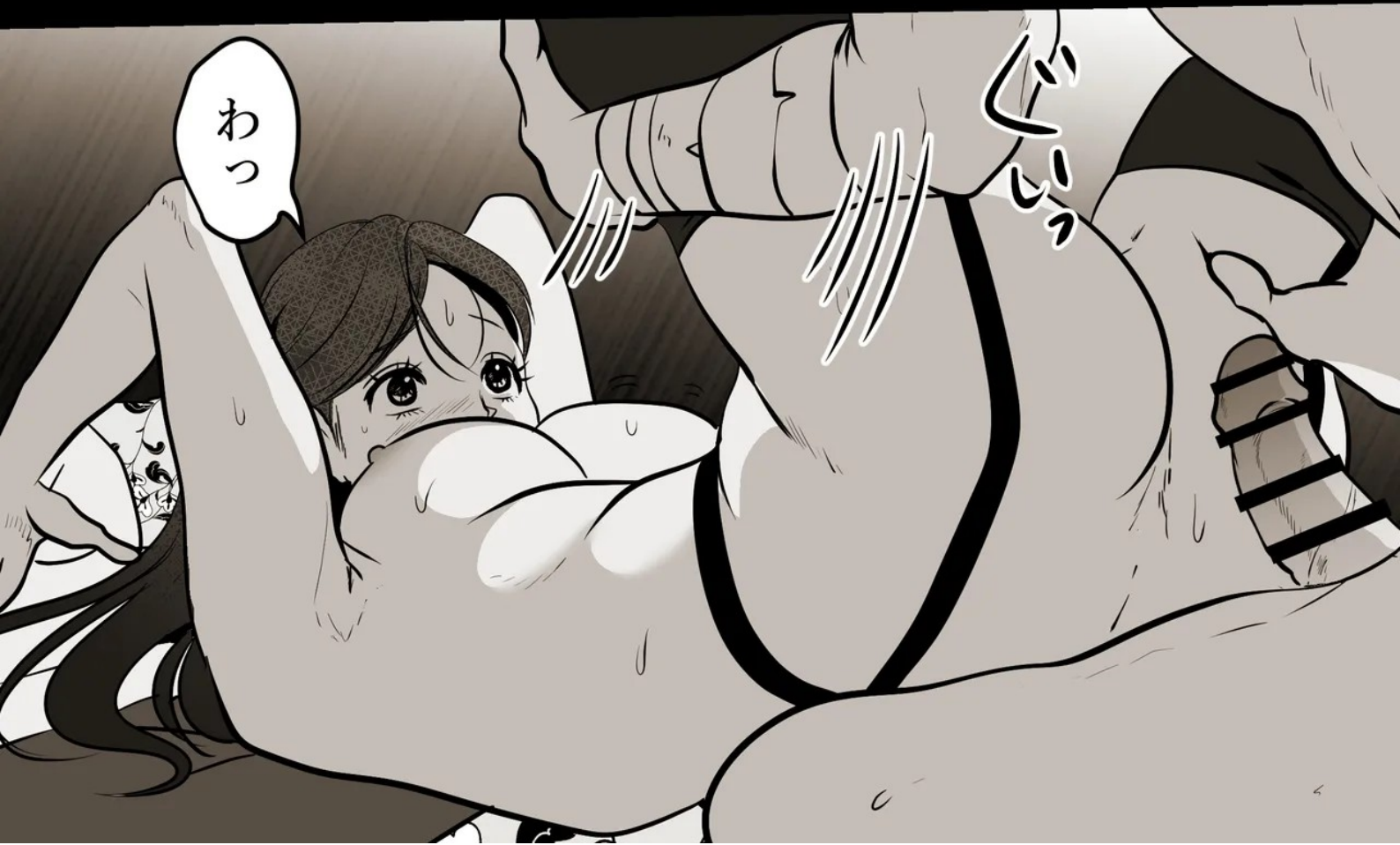
ん...

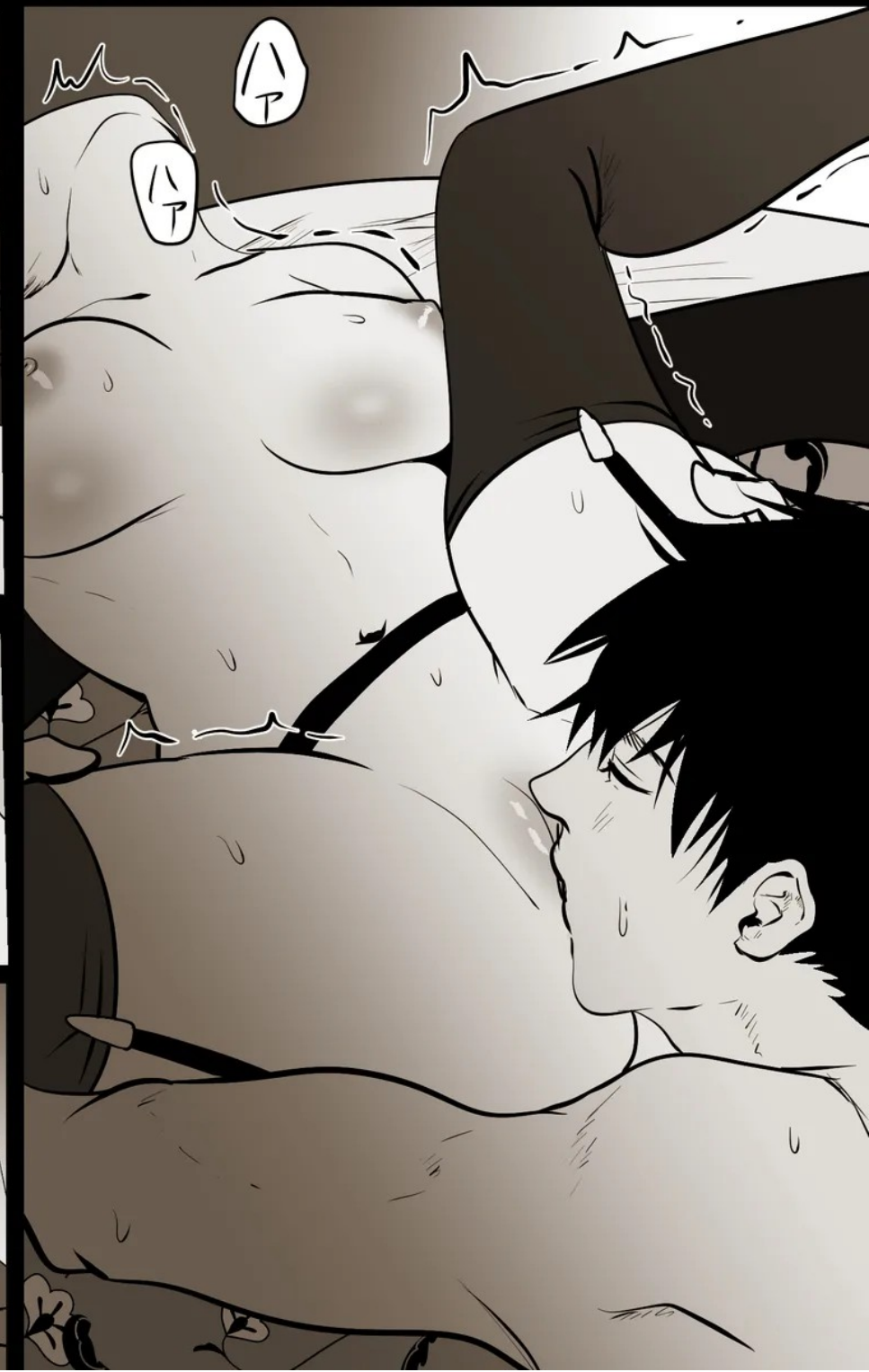
本気でやめて
ほしくなったら
ちゃんとやってくれ















きて：
佐之助

男は：その
入れたら
好いの
でしょう？

でも：



ちんこ痛え…

興奮しすぎてる



凄く濡れてるから
入りやすい
とは思う…けど



できないと
思う…？

全部は
しないで
慣らそう

へっ

うん…

もっと力
抜いて

ぬち

少し入った
平気か？

へ…平気…

佐之助は
どんな…
感じ？

ぬるぬるして
温かくて

結女子を
いっぱい
感じて
幸せだ

少しだけ
動くよ

はっ

ぐぐっ

あっ

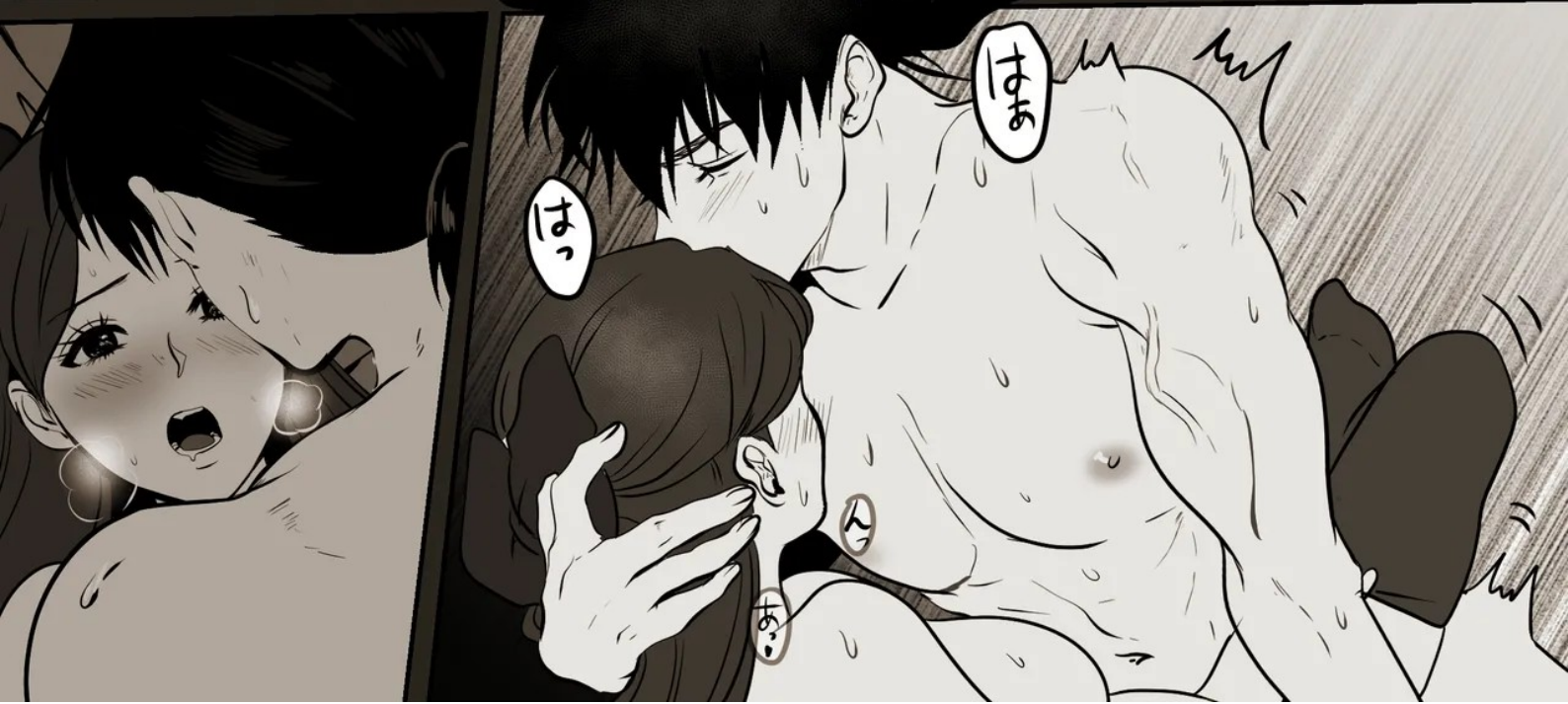
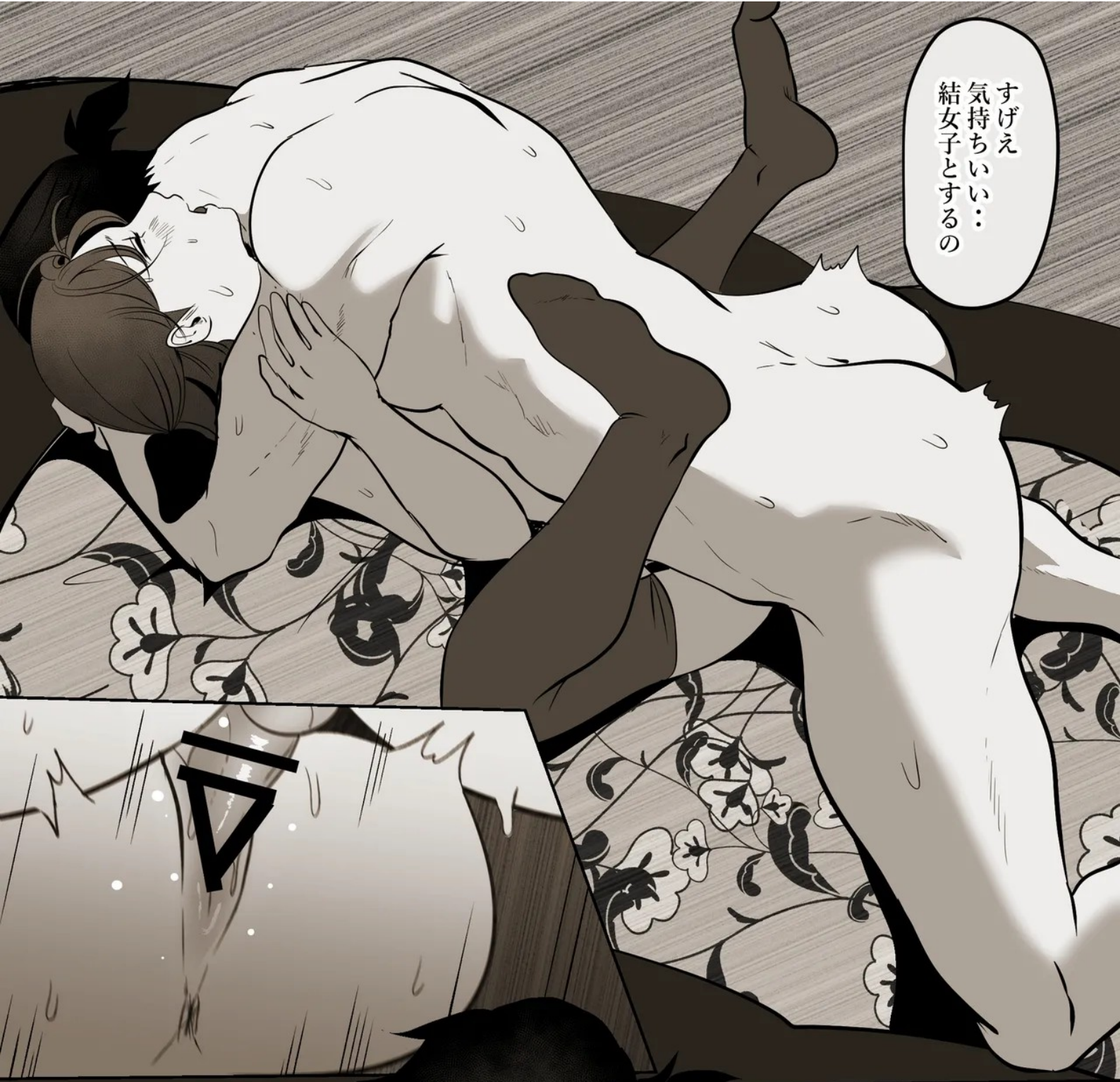
あっあっ

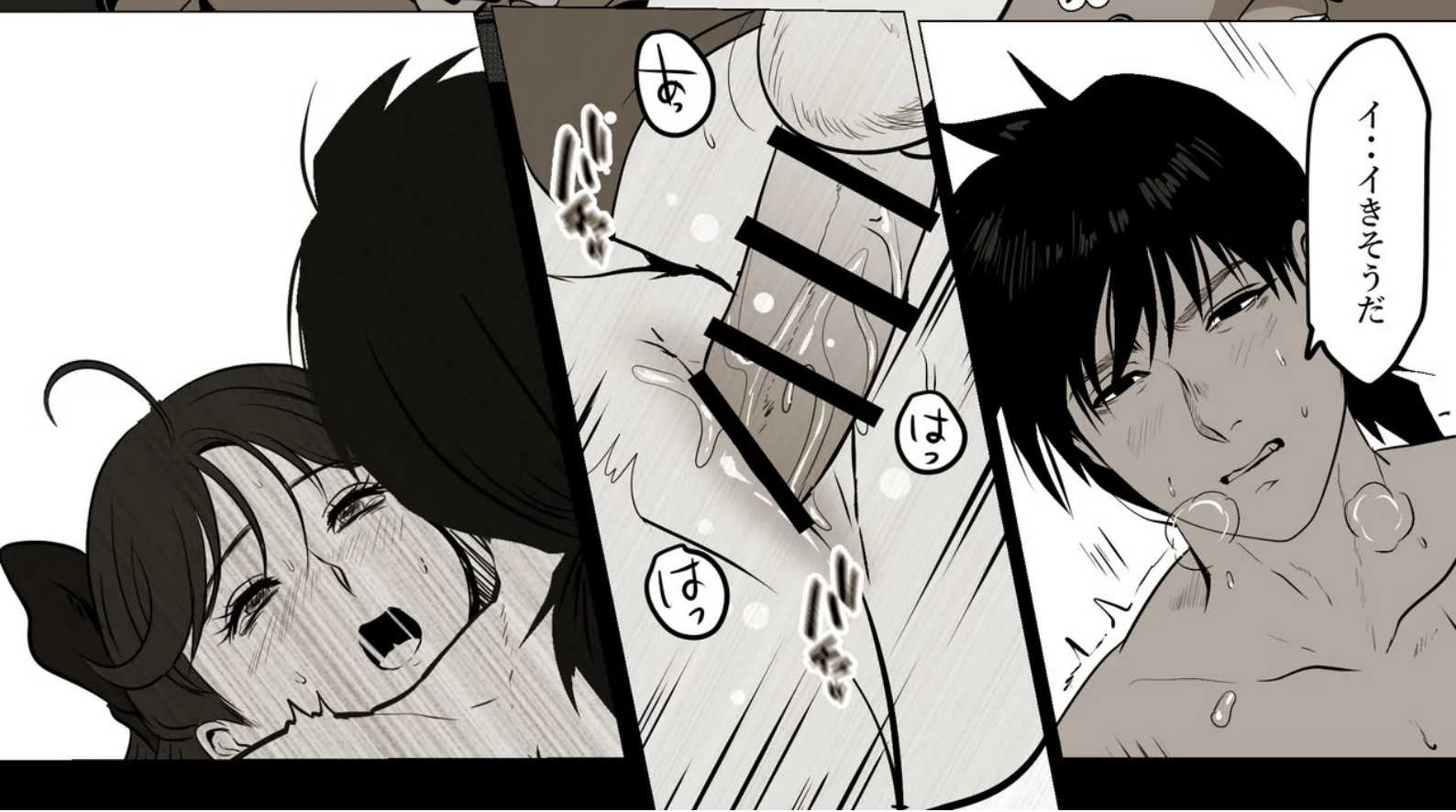
ぬるっ

はっ



すげえ
気持ちいい：
結女子とするの







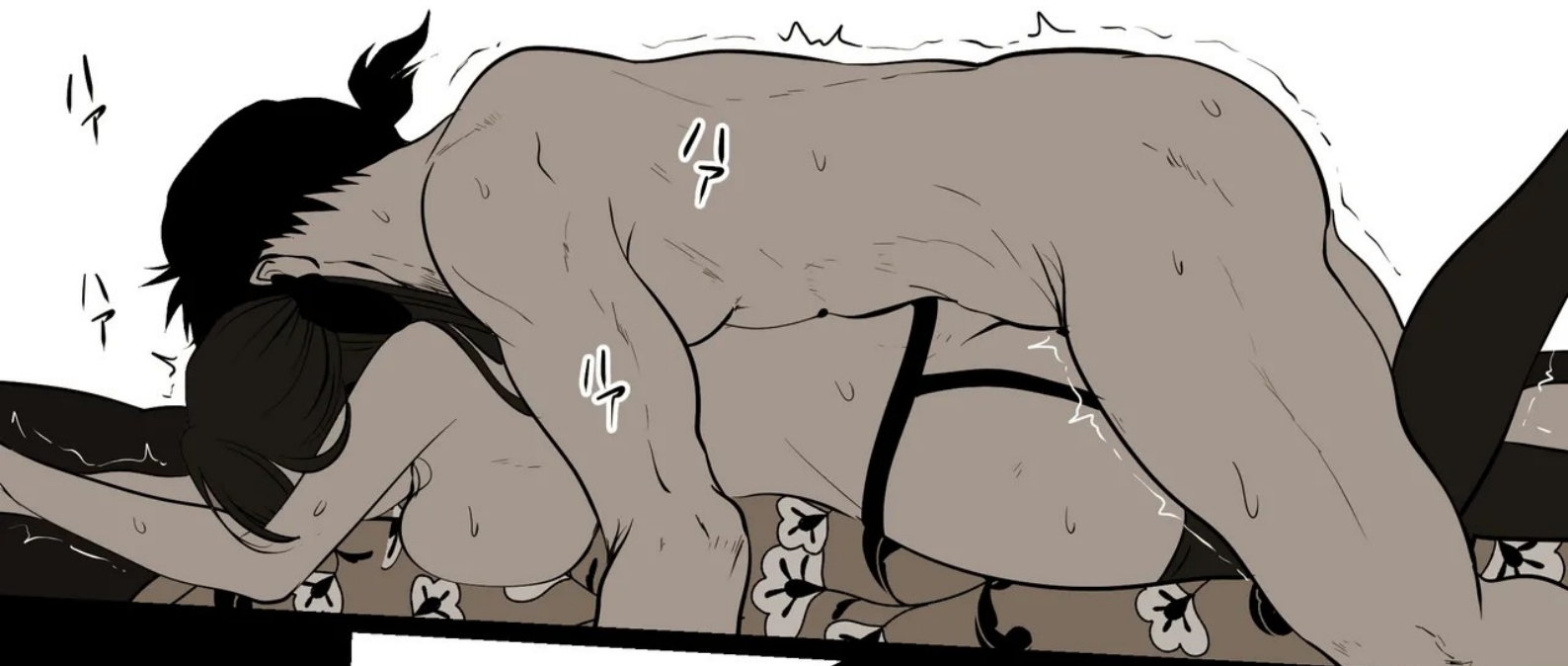
氣付いたら
花火の打ち上げ音は
無くなつていて

佐之助と私の
体がぶつかり合う
音と

いたくなん。

彼の静かで熱い
息遣いが部屋に
充満していた

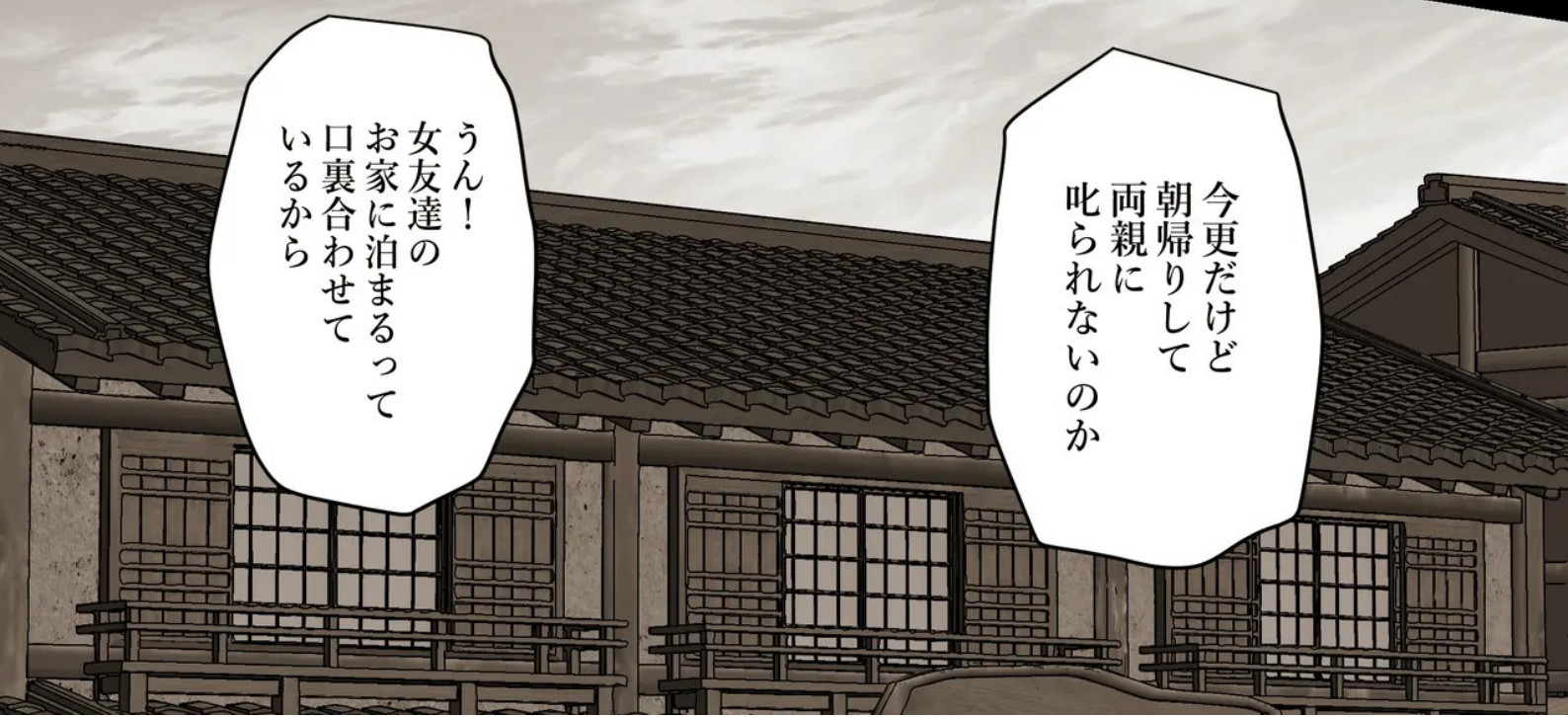




お父様も
お母様も
していること

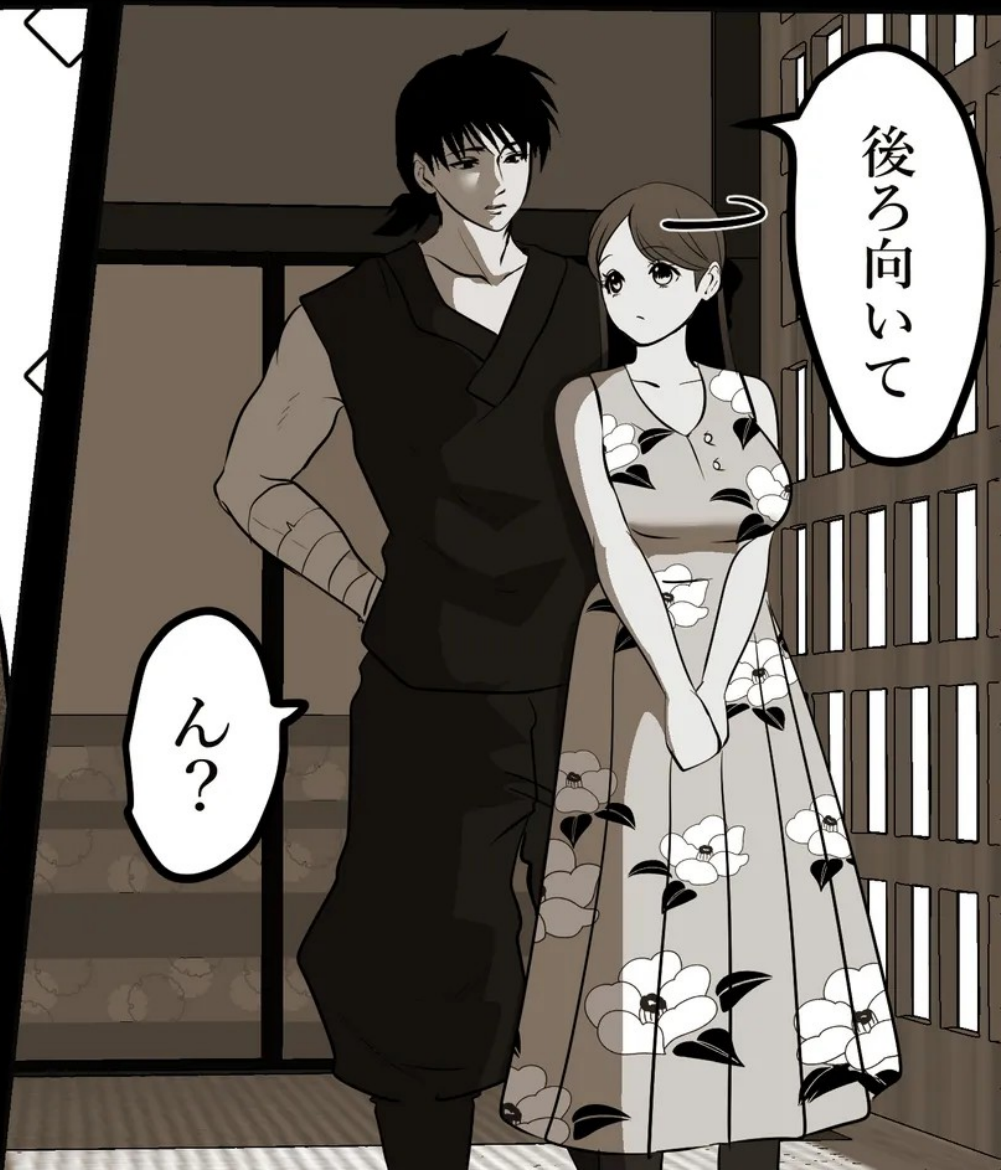
それなのに
どうしてこんなに
罪悪感を
感じるんだろう

でも……
これっきりに
したくないの



今更だけど
朝帰りして
両親に
叱られないのか

うん！
女友達の
お家に泊まるって
口裏合わせて
いるから



だ…だめだよ…
もう帰るから…

…うん

おは

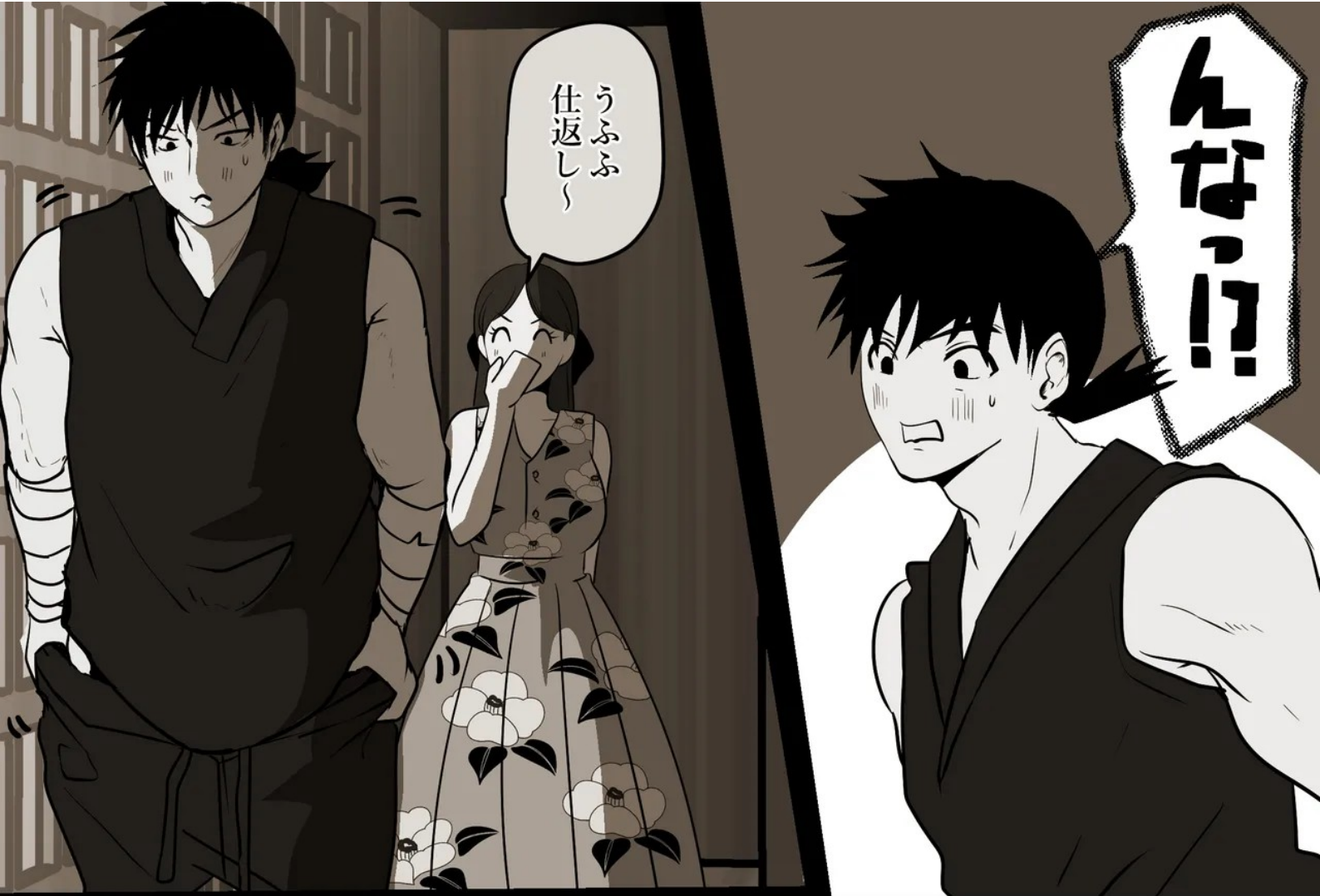
もに

す…

顔赤いから
家族に何か
バレるかもな

パッ





うふふ
仕返し

んなー!!



くだらない
やりとりを
ずっと続けたかった



望んだのは
そんな
小さなこと

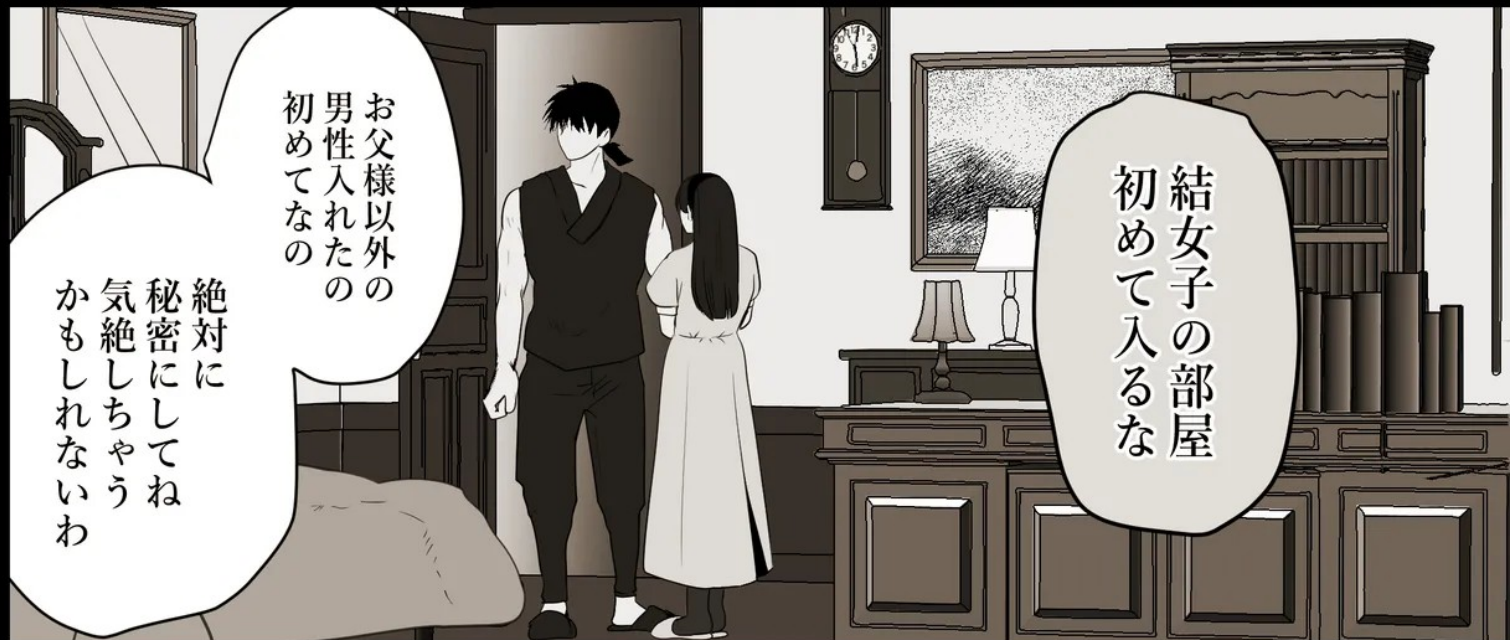
俺、幸せって
生まれて初めて
感じた気がする

来週
お父様と
お母様が
留守にする日
があるの

ウチ、来る？

行きたい

だけど……
心のどこかで
こんな毎日が
続くわけない、と
感じている



結女子の部屋
初めて入るな

お父様以外の
男性入れたの
初めてなの

絶対に
秘密にしてね
気絶しちゃう
かもしれないわ



あんたも
本を沢山
読むんだな



大丈夫よ
今日は帰って
来ないから



悪いこと
してる気分だ



うん！
勉強大好きなの
試験の点数では
誰にも負けたくない

今のうちに
賢くなって
自立するの

いい年に
なったら
お嫁に行って
一生家事する。
そんな未来
絶対嫌だから

家の中で
大人しく家事を
してる姿は
想像できないな

でしょ？

でも佐之助の
お嫁さんになら
なってもいいかも

…なんてね



アンタと
これからも
一緒に
いられたらな、と
思う



でも、俺じゃ
だめだ





でも貴方に
触れられる今は
一緒にいてくれる？



そう言う
と思ったよ……ばか……

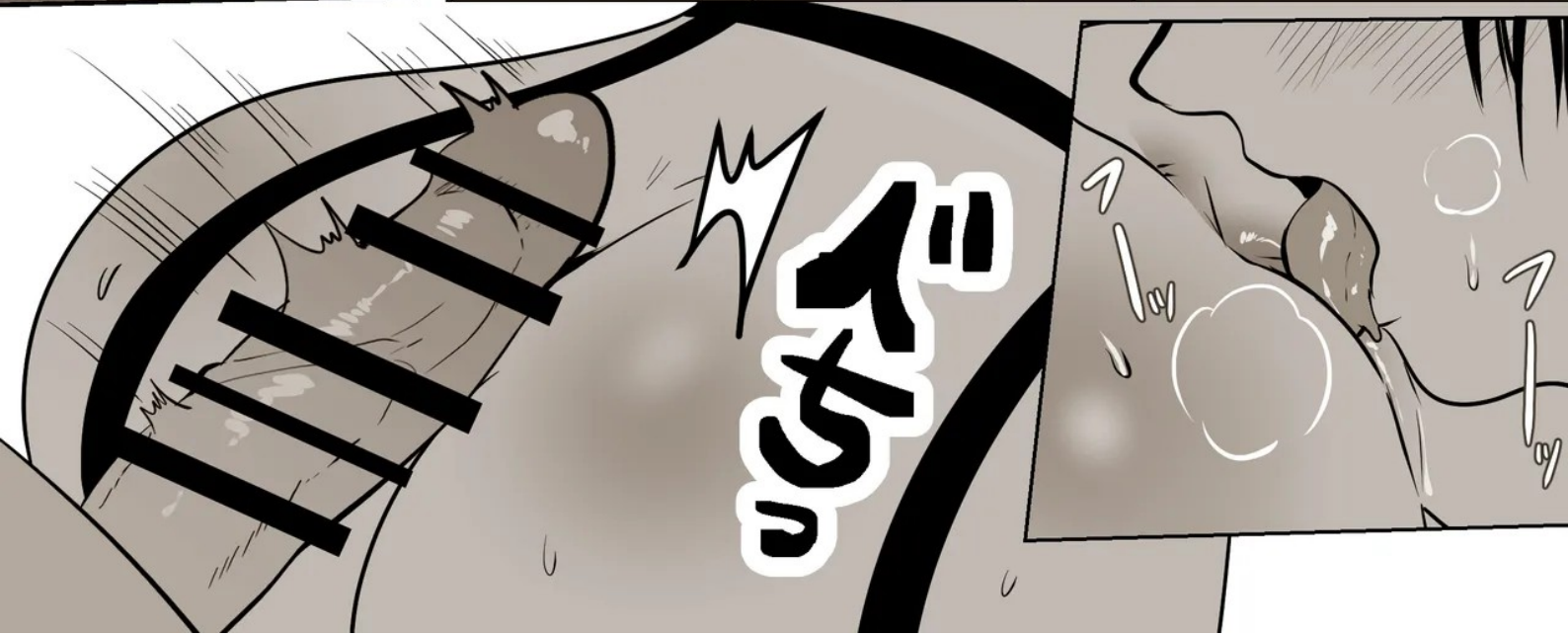


俺で……
いいなら



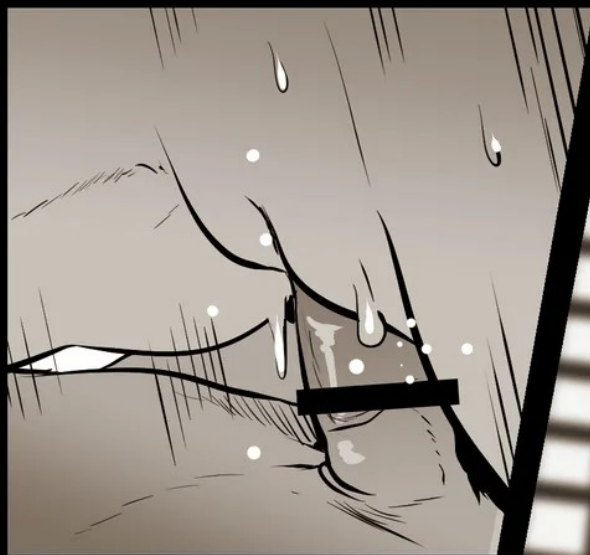


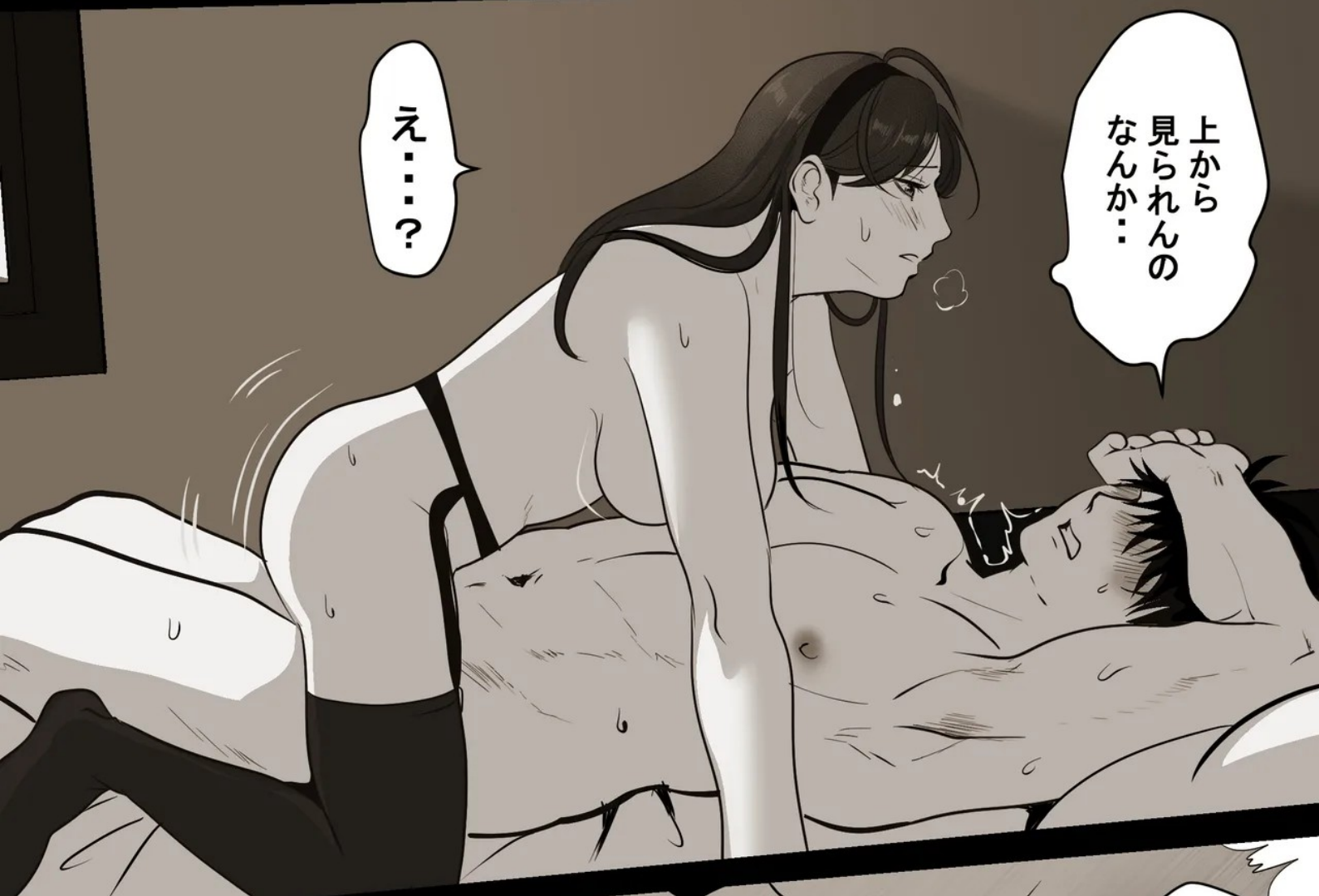






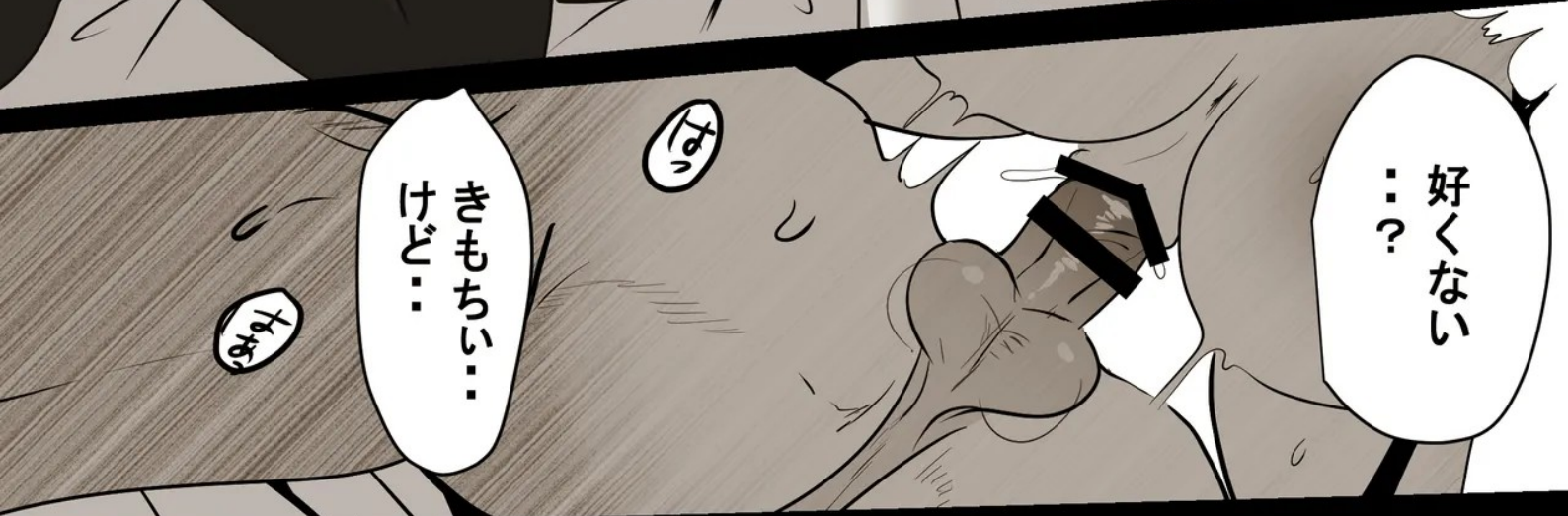






上から
見られんの
なんか…

え…？



好くない
…？

きもちい…
けど…



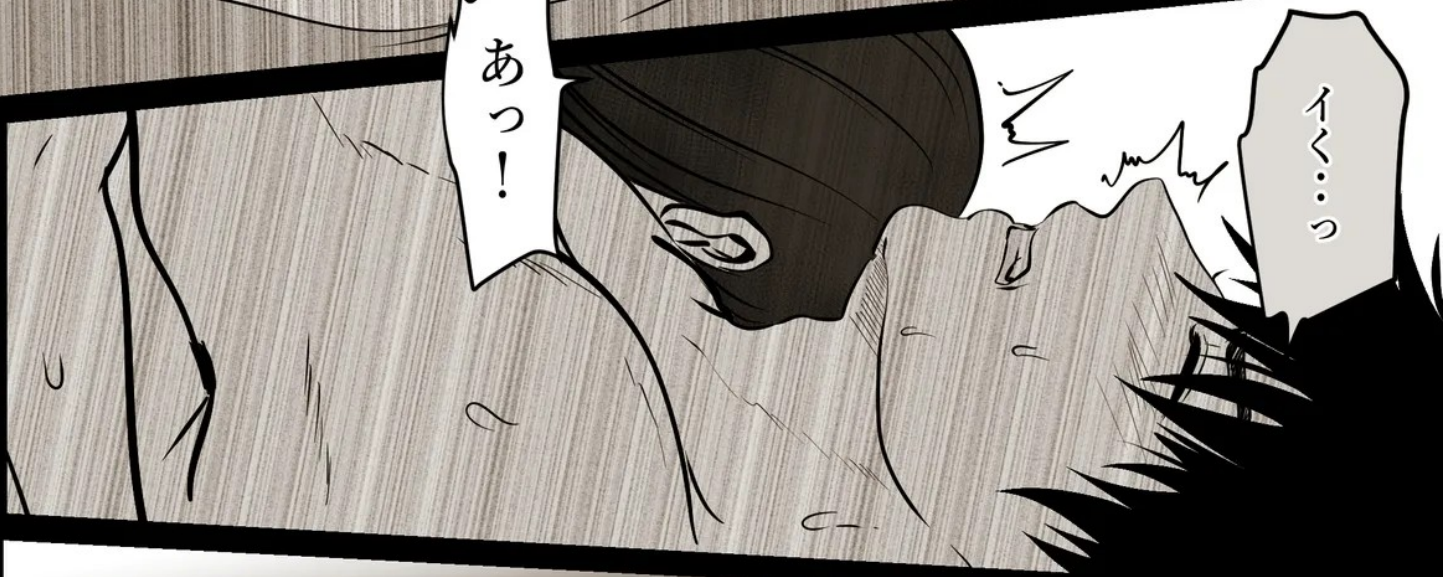
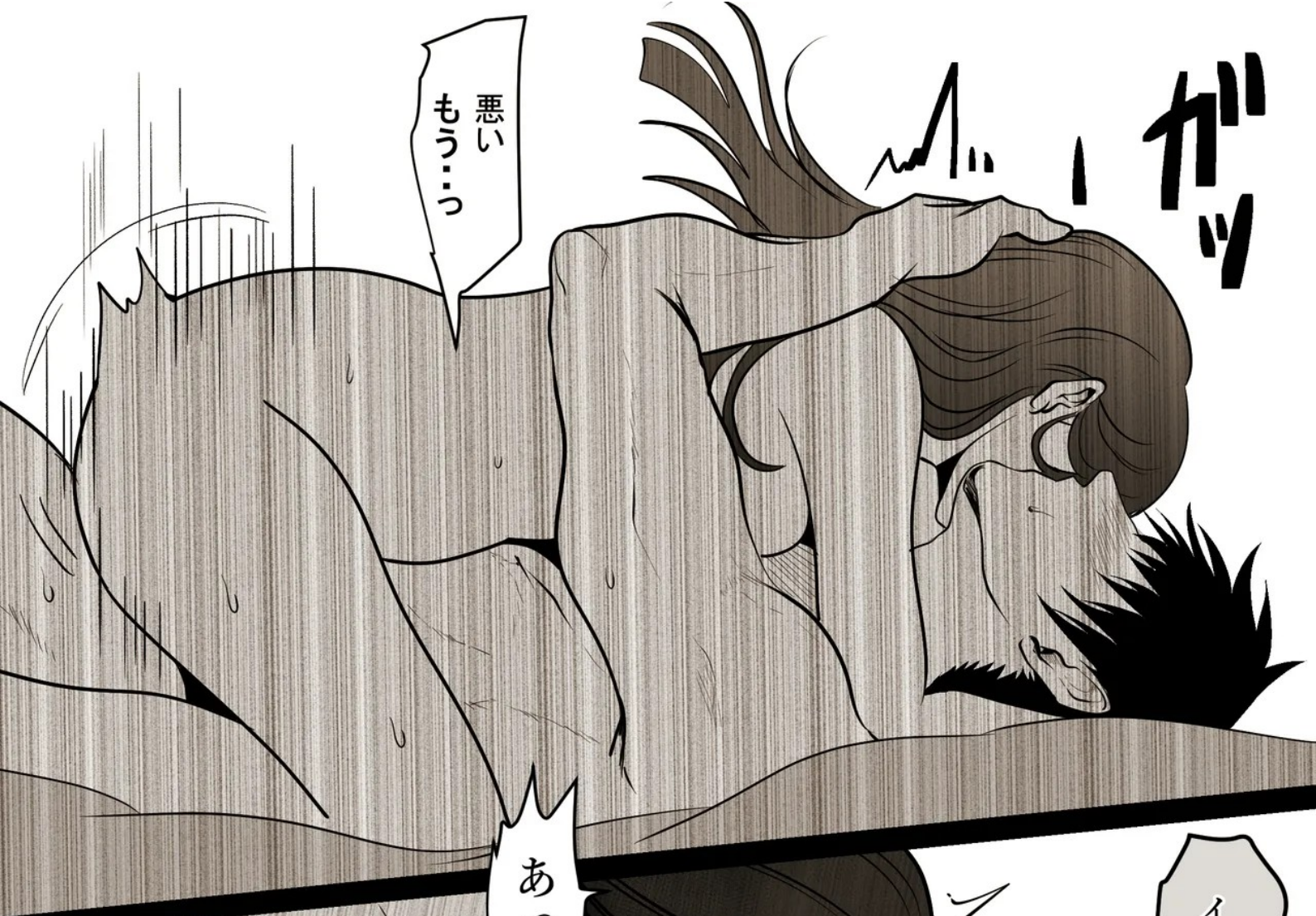
あっ



顔…
隠さないで







そして
嫌な予感が
当たる日は
やってきた

佐之助え
おまえ背中の
刺青に
心当たりない
と言ったな？

はい：

勝手に
調べてわりい
その刺青は
見たことが
あったんだ

それは望詰という
女の僕である
証だ

あ……

その顔は
知ってる
顔だな

はい…
思い出し
ました

そいつらは
今…

親玉諸々が
殺されて
もう解散
したってさ

よかった
…
…

金が無かった。
父さんが
借金作って
逃げて
更に金が
無くなった

母さんも
心がやんで
動けなくなった
尚更俺が
働くしかない

だけど
晩まで畑を
弄ったところで
弟を満足させるほど
食わせられなかった

だから…
俺の体を
買いたいという
金持ちの
女に売ったんだ

何でもした

あの女の
若い男へ
対する
加虐欲と
支配欲を
満たすために

何だって

何だって

はあ
顔のいい男が
私の体液で
穢れていく姿。

最高だわ。



でも…
あの女の目的は
俺から弟に
変わっていった





村に戻って
母さんに
これを渡せ

に…
兄ちゃんも
…

兄ちゃんは…
後から行く
大丈夫だから

この金が
あれば
飯には
困らない

盗んだの
…？

お前の体を
汚した報いだ
安いもんだろ



人を殺して
金まで盗んだ



俺は…罪人だ



いてえ…

頭がぼーっと
してきた…

思い出したくない

わかりきってたことだ



生まれた世界が
違いすぎる



これが…
俺の全部だ

戻らないと。
弟と母さんの
ところに

俺のこと
考えてくれるなら
何も言わないで
見送ってほしい

あと…
俺への気持ち
は
忘れてくれ

俺も、忘れるから

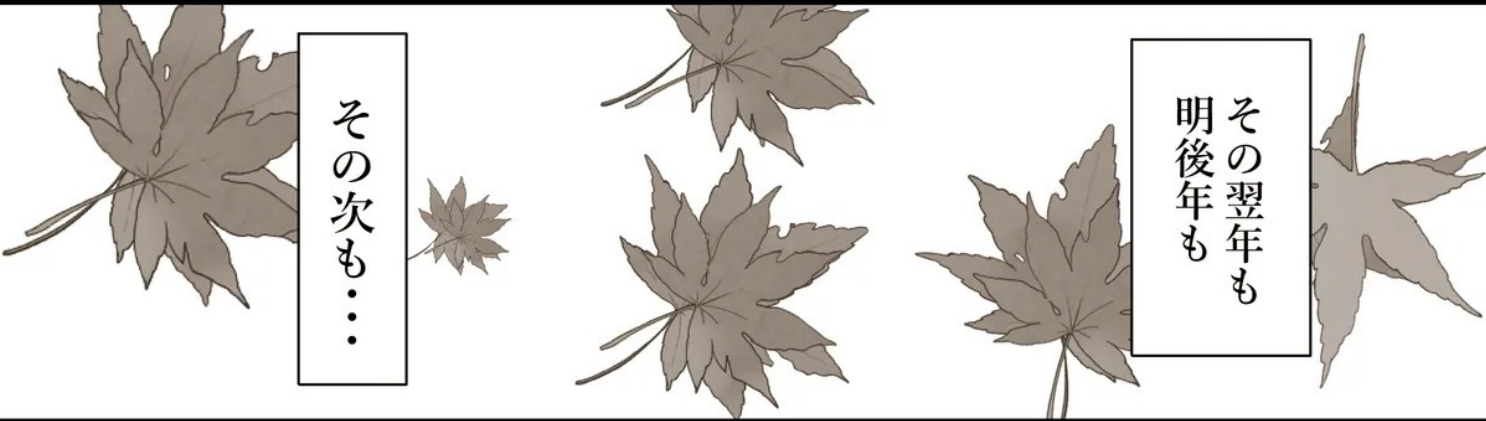




来年も一緒に
花火を見る



その約束が
果たされることは
ありませんでした



その次も…

その翌年も
明後年も



その次も

…



先生追加で
翻訳依頼
です
蘭語の
植物学資料
と:



腰と肩が
限界っ！

集中力も
限界っ！

イキッ

ん！そっちの
机置いておいて



ちよい散歩に
行ってくるから
お留守番よろしく

えーっ！
一時間後に
来客の予定も:



それまでに
帰ってきまーす



今日から
東の町の警団が
帯刀して街を
巡回しているんです

中には
六尺以上はある
男もいて：
威圧感がすごくて…

先生では
勝てませんので
気を付けて
くださいね！

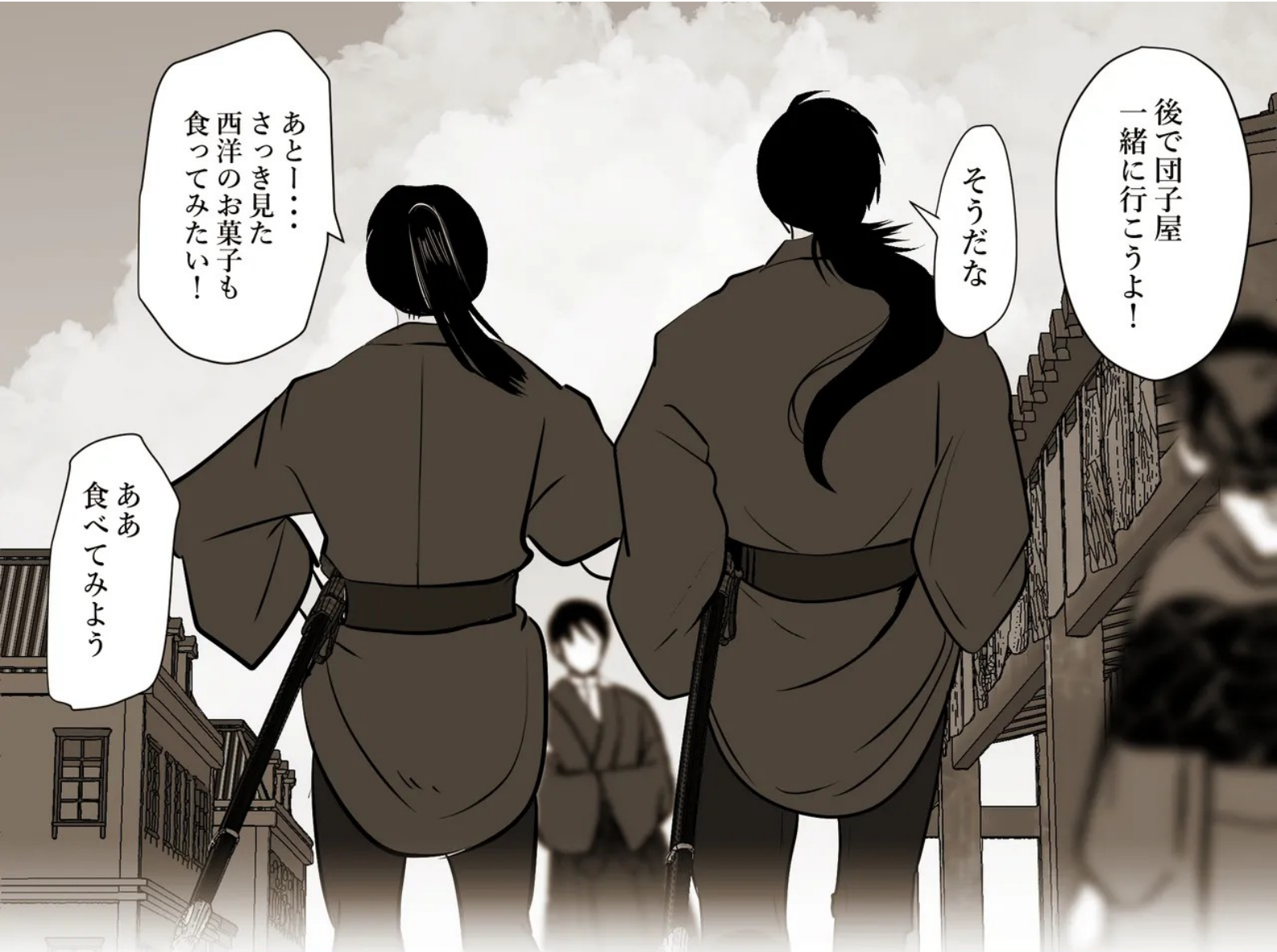
なんでやらかす
前提なのよ！

歩くだけ
だってば

兄ちゃん！
この街は
ハイカラなもん
いっぱいあんな！

服だって
見たことない形
ばっかりだ！

後でゆっくり
見る時間がある
今は仕事に
集中しろ

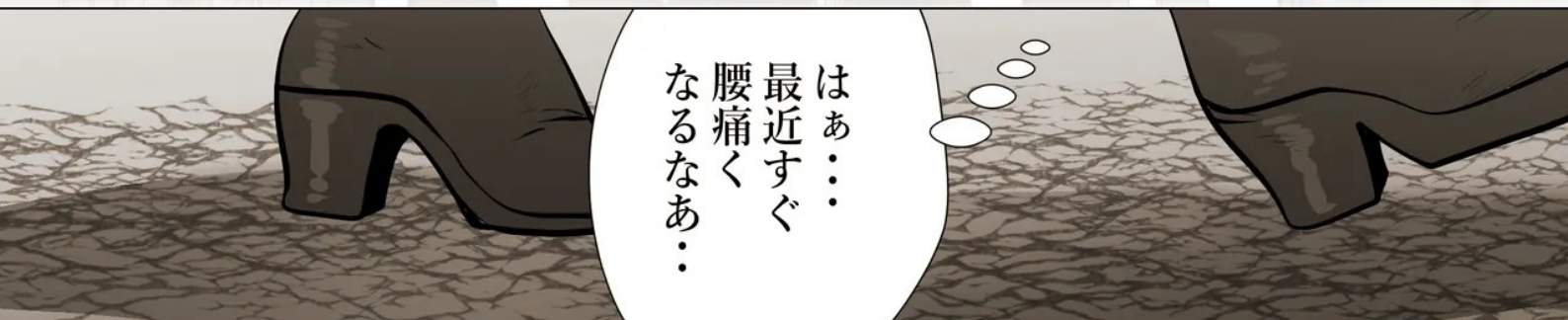


後で団子屋
一緒に行こうよ！

そうだな

あとー…
さっき見た
西洋のお菓子も
食ってみたい！

ああ
食べてみよう



はあ…
最近すぐ
腰痛く
なるなあ…



年…？
まさか…





終

